



EF EPI

EF 英語能力指数

世界113か国・地域の英語能力ランキング

www.ef.com/epi

EF SET

EF 標準英語テスト
www.efset.org/ja

2023

目次

04	エグゼクティブ・サマリー
06	EF EPI 2023 国/地域別ランキング
08	EF EPI 2023 都市別スコア
10	EF EPI 2023 詳細データ
12	英語と経済
13	英語とイノベーション
14	職場における英語
16	英語と社会
17	英語と未来
18	ヨーロッパ
20	アジア
22	中南米
24	アフリカ
26	中東
28	英語能力レベルの詳細
40	結論
42	提言
44	付録A: この指数について
46	付録B: EF EPI 能力レベル
47	付録C: CEFR レベルとCan-Do自己評価
48	付録D: EF EPI 各国・地域スコア

エグゼクティブ・サマリー

言語を学ぶことは、単なる言葉の翻訳にとどまらず、異文化への理解を深めることにもつながります。言語学習は、物事の背景をより柔軟に捉え、新たな視点から捉えるうえでも役立ち、こうしたスキルは、共感や革新の能力とともに、AIに取って代わられることのない貴重なスキルとなっています。

どの言語を学んでも同じように多様な価値を得られますが、英語は話者数がとりわけ多いことから今日の社会において絶対的なポジションを確立しており、英語の使用人口が増えるほどに、英語を話すことによる有用性がより多く見込めるようになっています。

英語は私たちの可能性を広げるだけでなく、組織の多様性や効率の向上においても大きな効果を発揮します。気候変動の影響による大災害や、戦争・紛争をはじめとするグローバルな課題が山積みとなっている今日、私たちの生活のあらゆる領域において、国際コミュニケーションをはじめ異文化理解や人間的共感へのニーズがこれまで以上に高まっています。このような背景のもと、弊社では英語能力に関するデータを継続的に収集し、世界の各地域で英語能力がどのように向上しているか調査し、その結果をEF English Proficiency Index (EF EPI) としてまとめました。

EF EPIは2011年の初の公表以来、グローバルな英語能力の傾向や推移に焦点を当ててきました。本年度の結果は、2022年にEF英語標準テスト(EFSET) または弊社の英語実力テストを受けた 220万人を超える受験者のテストデータを基にしています。

グローバル規模での安定は今だ実現せず成人の平均的な英語能力は2011年以来大きく変化しておらず、過去10年間を振り返ってみると、情勢や優先事項の変化により、あるグループでの向上が別のグループでの低下によって相殺される状況が生まれているなど、英語能力には依然として大きなばらつきがあることが見て取れます。英語が世界的な支配言語となるという、やや極端な予測の実現にはまだほど遠く、英語を話すことで得られる機会を誰もが平等に享受できる状況にもありません。

複数の地域で若年層の英語能力が低下
今回の調査では、若年層(18~20歳)の英語能力の低下も見られますが、これは世界的な傾向ではなく、一部の大国における傾向の影響によるものであり、実際にはほとんどの国において英語能力に大きな変化は見られませんでした。こうした一部の国での英語能力の低下の要因となったのが、COVID(新型コロナウイルス)による教育システムが一時的に麻痺したことであり、このような状況によって生じた英語能力の低下が、時間の経過とともに改善するかどうかは今だはっきりしないものの、どのグループも徐々に回復に向かうことが予想されています。一方で、英語教育の普及に伸び悩む一部の国では、若年層における英語能力の低下が長期化しているという課題があります(年齢別・国別の英語能力の傾向に関する詳細は、EF EPIウェブサイトをご参照ください)。

ビジネスシーンにおける英語能力が向上
社会人の英語能力は2015年以降向上し続けており、このような英語能力の向上は、単純に高い英語能力を備えた若年層の高齢化によるものと結論づけられないほどに急激に進んでいます。社会人グループは、企業の研修プログラムや自己啓発の機会を通じて、職場における英語能力を向上させており、この状況は、グローバル化した職場で求められる英語能力と一般教養で身につけた英語能力とのギャップを埋めるべく、英語学習の専門コースへのニーズが過去10年間で急増したと一致しています。

男女の格差が引き続き拡大
過去10年間で、男性の英語能力は世界的に向上している一方で、女性の英語能力はわずかに低下しており、立場の逆転が見られます。大半の国では大きな男女差はないものの、男女差が生じている国々のうち、男性優位の国は38カ国であるのに対し、女性優位の国はわずか5カ国にとどまっており、これは、職場のより高給でグローバルなポジションにおいて、女性が占める割合が依然として低いことが一因だと考えられます。また、18歳から25歳までの男女差は社会人の3倍もあり、教育制度そのものや教育機関がこの問題に十分に対処できていないことが見て取れます。教育へのアクセスの平等化が進み、高等教育における女性の割合が増加し、女性の学業成績が全体的に高くなっていることを踏まえると、このような結果は驚くべきことではありませんが、男女間の能力レベルのばらつきが大きい、あるいは増加している国々については、さらに調査していく必要があります。

東アジアの英語離れが継続か
成人の英語能力は、東アジアでは過去4年間、日本では過去10年間低下し続けており、今年日本と中国で起きた大きな変化が、低下にさらなる拍車をかけています。今年、米国の大学に入学した東アジアからの学生数は大幅に減少しており(2020年と比較して、2023年には韓国で20%、中国で30%減少)、パンデミックによる渡航制限がその要因として挙げられる一方で、より広範な政治的および人口統計学的変化による影響や、教育における西洋文化の覇権を疑問視する人々が増えていることも一因だと考えられています。

伸び悩む中東
中東の英語能力の平均レベルは、英語能力の高い国が指数に加わったことが原因で、過去10年間で向上しているように見える結果になっています。国別のレベルでは、過去2年間に壊滅的な打撃を受けたレバノンのみテストスコアに大きな影響が出ていますが、その他の国々では大きな変化は見られません。

中東地域は、すべての年齢層が同レベルのテストを受験しているなかで、年齢層によるスコアのばらつきが最も少ないエリアでした。効果的な教育改革は若年層に反映され、効果的な職場訓練制度は社会人のレベルを引き上げるであろうことから、中東地域においては教育機関や職場が人々の英語能力向上にそれほど大きく影響しておらず、誰もが同程度の英語能力を持っていると考えられますが、ほとんどの専門職や高等教育の場では不十分なレベルとなっています。

ラテンアメリカは若年層を除き改善傾向
ラテンアメリカの英語能力は流動的であり、中米の英語能力レベルは過去10年間で年平均6%と世界のどの地域よりも高い伸び率を出しており、南米でも着実な上昇が見られる一方で、メキシコは大幅に低下しており、2015年以降、メキシコとアルゼンチンの両地域が18歳から20歳の年齢層が世界的な低下をリードしています。地域全体では、若年層の英語能力がパンデミック時に平均を大幅に下回り、現在も回復の兆しが見えない状況にあります。

横ばいのヨーロッパ
ヨーロッパは、依然として指数の上位を独占しているものの、今年はやや低迷しており、英語能力のスコアが高い地域において、若干のスコアの低下が見られました。すでに高い水準にあるヨーロッパでは、長期的な傾向としてはEU内外で着実な改善が見られる一方で、フランスをはじめスペインやイタリアなどのヨーロッパの経済大国として知られる国々が近隣諸国と同等の水準に達しておらず、とりわけ能力レベルの高い北欧地域では、男性が女性を40ポイント以上引き離している国もありました。

その他のアジア地域は、おおむね安定
南アジアと東南アジアの地域平均は、数年前から緩やかに右肩下がりを続けるインドの影響を受け若干低下してきているものの、同地域の多くの国々が、安定したスコアないし小幅なスコアの上昇を見せています。一方、タイでは2020年までの進歩がパンデミックによって帳消しになったという結果が見て取れます。また、中央アジアの平均スコアは低水準で推移しており、ほぼすべての国で男性が優位となっています。

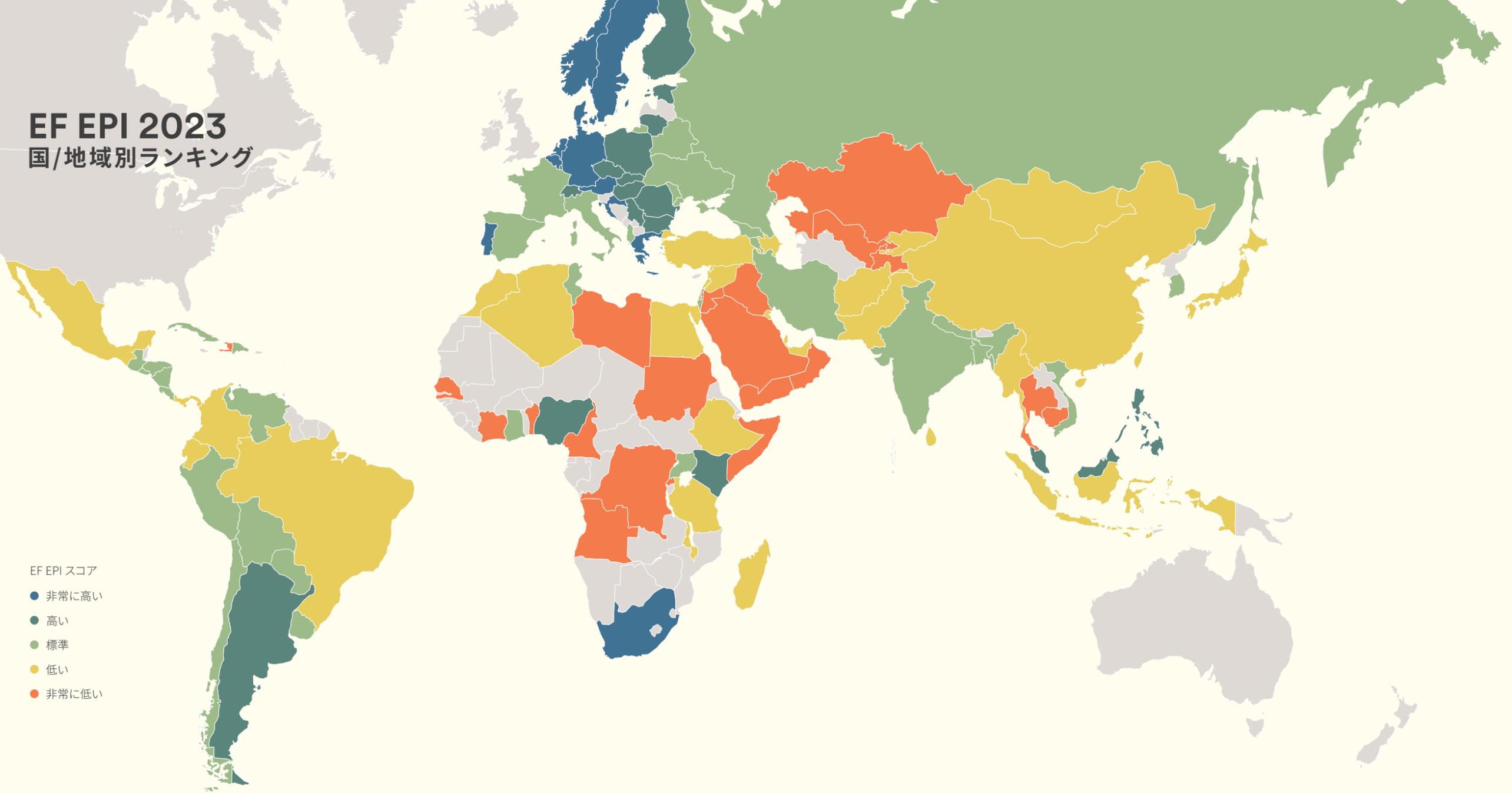
北アフリカは改善傾向
北アフリカにおける英語能力は過去10年間着実に向上してきたものの、2021年以降は伸びのペースが鈍化しています。同地域が新たな能力水準で落ち着くのか、それともさらなる上昇を続けるのかを現時点で判断するには時期尚早感が否めないものの、20~25歳の年齢層が最も高い英語能力レベルを示しているのは、大学教育が大きく寄与していると考えられます。また、同地域の教育制度における英語とフランス語の住み分けが、依然として議論的的となっています。

アフリカ全体では、英語能力レベルに大きな差は見られず、ほとんどの国ですべての年齢層が同レベルのテストを受験しています。男女差も他の地域より小さく、一部の例外を除き、国別平均でも大きな男女差は見られませんでした。

言語は、人々が認識を揃え、相互理解を深めるために不可欠な存在です。特に英語は世界中の多くの人々に話されていることから、国境を越えて人々の距離を縮めるうえで不可欠なものとなっており、より多くの人々がこうした会話に参加できる機会を得るべきだと考えています。

EF EPI 2023 国/地域別ランキング

- EF EPI スコア
- 非常に高い
 - 高い
 - 標準
 - 低い
 - 非常に低い



非常に高い英語能力

01	オランダ	647
02	シンガポール	631
03	オーストリア	616
04	デンマーク	615
05	ノルウェー	614
06	スウェーデン	609
07	ベルギー	608
08	ポルトガル	607
09	南アフリカ	605
10	ドイツ	604
11	クロアチア	603
12	ギリシャ	602

高い英語能力

13	ポーランド	598
14	フィンランド	597
15	ルーマニア	596
16	ブルガリア	589
17	ハンガリー	588
18	スロバキア	587
19	ケニア	584
20	フィリピン	578
21	リトアニア	576
22	ルクセンブルク	575
23	エストニア	570
24	セルビア	569
25	マレーシア	568
26	チェコ共和国	565
27	ナイジェリア	562
28	アルゼンチン	560
29	香港特別行政区	558
30	スイス	553

標準的な英語能力

31	ホンジュラス	544
32	ジョージア	541
33	ベラルーシ	539
34	ガーナ	537
35	イタリア	535
35	モルドバ	535
35	スペイン	535
38	コスタリカ	534
39	アルバニア	533
39	ウルグアイ	533
41	ボリビア	532
41	ロシア	532
43	キューバ	531
43	フランス	531
45	パラグアイ	530
45	ウクライナ	530
47	ウガンダ	529

48	アルメニア	528
49	韓国	525
50	エルサルバドル	524
51	ペルー	521
52	チリ	518
53	グアテマラ	515
54	イスラエル	514
55	ドミニカ共和国	512
56	ベネズエラ	508
57	ネパール	507
58	イラン	505
58	ベトナム	505
60	バングラデシュ	504
60	インド	504
62	ニカラグア	503
63	チュニジア	502

低い英語能力

64	パキスタン	497
65	レバノン	496
66	トルコ	493
67	スリランカ	491
67	タンザニア	491
69	エチオピア	490
70	ブラジル	487
71	パナマ	486
71	アラブ首長国連邦	486
73	モンゴル	482
73	カタール	482
75	コロンビア	480
76	モロッコ	478
77	アルジェリア	475

78	マダガスカル	474
79	インドネシア	473
80	エクアドル	467
80	シリア	467
82	中華人民共和国	464
83	アゼルバイジャン	463
83	エジプト	463
85	クウェート	461
86	マラウイ	460
87	日本	457
88	アフガニスタン	456
89	メキシコ	451
90	キルギス共和国	450
90	ミャンマー	450

非常に低い英語能力

92	パレスチナ	445
93	ウズベキスタン	442
94	カメルーン	438
94	セネガル	438
96	ヨルダン	431
97	スーダン	430
98	カンボジア	421
98	ハイチ	421
100	オマーン	418
101	アンゴラ	416
101	ベナン	416
101	タイ	416
104	カザフスタン	415

105	ソマリア	411
106	イラク	410
107	コートジボワール	409
108	サウジアラビア	408
109	ルワンダ	405
110	リビア	392
110	イエメン	392
112	タジキスタン	388
113	コンゴ民主共和国	385

EF EPI 2023 都市別スコア

EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い



非常に高い英語能力

アムステルダム	646
ウィーン	640
コペンハーゲン	639
ストックホルム	637
オスロ	629
ベルリン	625
ソフィア	622
ベルン	621
タリン	621
ヘルシンキ	617
ケープタウン	614
ザグレブ	612
アテネ	611
ビリニュス	610
リスボン	609
ワルシャワ	605
プカレスト	602
ブダペスト	600

高い英語能力

ベオグラード	594
ブラチスラヴァ	592
ブエノスアイレス	592
ブリュッセル	589
プラハ	589
マニラ	587
ナイロビ	586
パリ	579
ラゴス	578
キシノウ	573
クアラルンプール	564
ラパス	562
ソウル	559
ティラナ	559
マドリッド	558
ローマ	555
サンティアゴ	553
アクラ	552
トビリシ	551
テグシガルバ	551

標準的な英語能力

アスンシオン	549
ミンスク	549
モンテビデオ	549
サン・ホセ	549
キーウ	547
バイルート	545
ハバナ	543
ブラジリア	542
モスクワ	542
ハノイ	538
イスラマバード	538
エレバン	536
ソマ	536
サンサルバドル	534
チュニス	533
ジャカルタ	531
コロombo	528
サント・ドミンゴ	528
カトマンズ	527
カラカス	521

ダッカ	521
グアテマラシティ	521
テヘラン	521
カンパラ	520
アディスアベバ	515
ダル・エス・サラーム	515
北京	514
アルジェ	513
キト	513
リオデジャネイロ	513
上海	512
マナグア	511
ドバイ	510
ラバト	506
アンカラ	503
東京	503
エルサレム	500
メデジン	500
ウランバートル	500

低い英語能力

パナマシティ	491
ヌルスルタン	485
ビシュケク	484
ドーハ	484
ダマスカス	477
カイロ	476
広州	475
アンマン	470
バクー	466
メキシコシティ	462
カブール	458
バンコク	457
デリー	451

クウェートシティ	446
タシュケント	445
モガディシュ	442
ハルツーム	440
マスカット	436
ヤウンデ	436
ネピドー	433
ルアンダ	428
ポルトー・フランス	427
アビジャン	425

非常に低い英語能力

バグダッド	425
プノンペン	422
キンシャサ	421
トリポリ	410
キガリ	409
サナア	408
リヤド	400
ドゥシャンベ	392

1,200を超える国と地域の英語能力スコア、および国別、地域別の性別、年齢、業種のデータの詳細はこちら：
www.ef.com/epi

EF EPI 詳細データ

受験者の内訳

220万人
合計受験者数



55%
女性

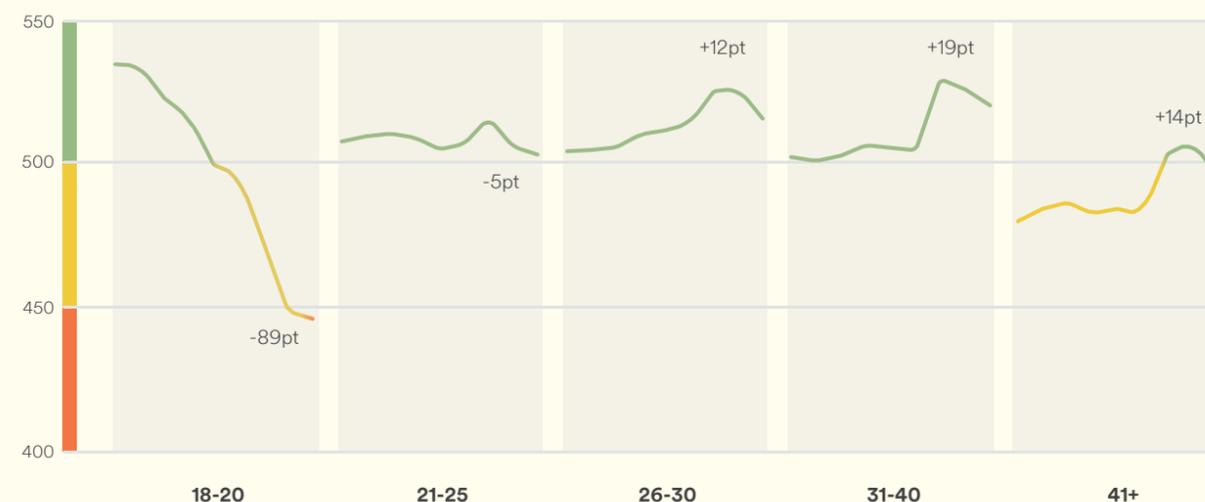


45%
男性



26歳
年齢の中央値

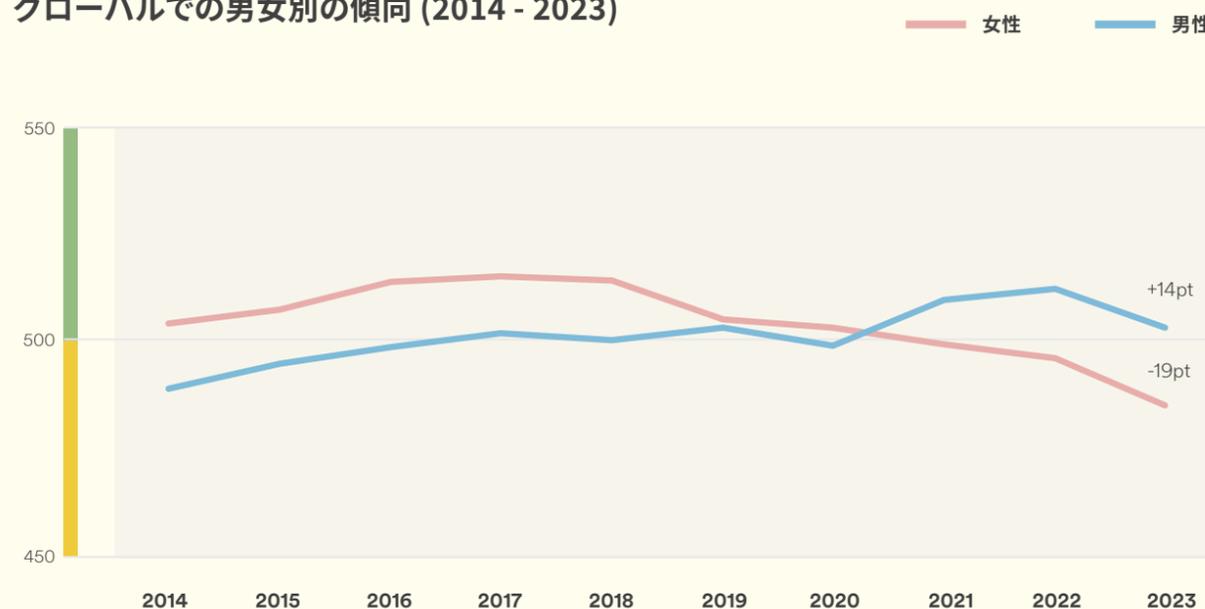
グローバルでの世代の傾向 (2015 - 2023)



地域別の傾向(2011 - 2023)



グローバルでの男女別の傾向 (2014 - 2023)



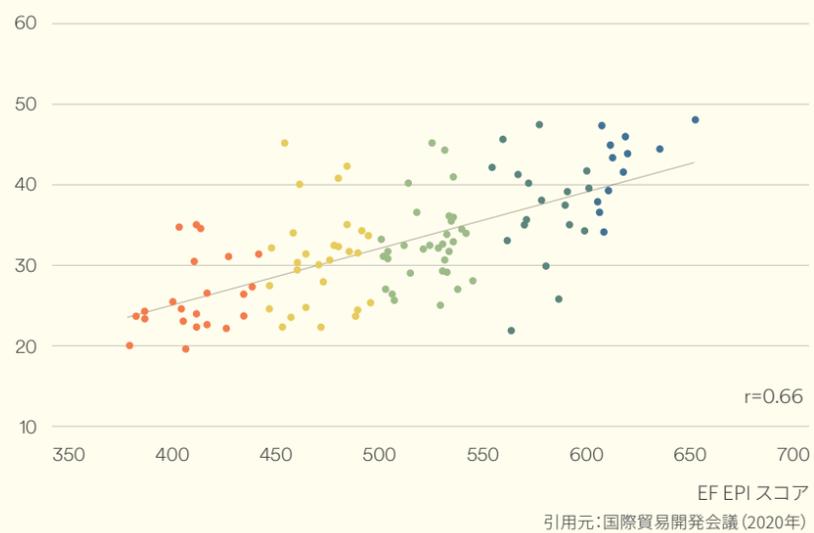
英語と経済

地域の富やビジネスと英語能力との間には相関関係がありますが、これらの傾向は、経済バランス、生産性、潜在能力ほどより複雑な指標と英語能力との相関関係ほど顕著ではありません。英語はそれ自体ビジネスの拡大や賃金の上昇に直接的につながるわけではありませんが、現代の労働力に必要なスキルであると同様に、英語能力が経済発展や労働力の効率化と密接に関係していることは明らかです。

グラフ A

英語と生産性

生産能力指数



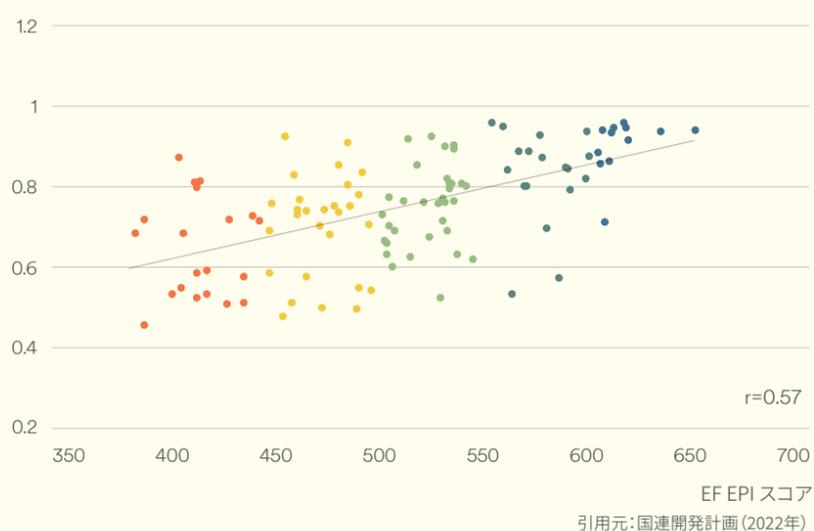
EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフ B

英語と人的資本

人財開発指数



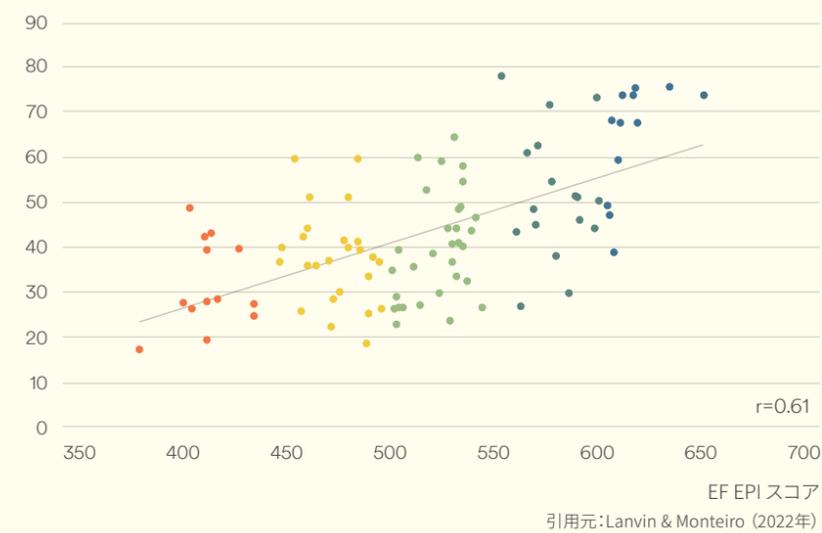
英語とイノベーション

技術革新や研究においてより良い成果を得るためには、アイデアや情報の円滑な交換が不可欠であることから、これまで多くの学者が最新のアイデアや情報を常に把握し、国境を越えて学術的な議論を交わすために、互いの言語を学び合ってきました。このような状況において、英語は過去100年にわたりグローバル言語としての地位を確立させており、今日その活用はますます多様な領域に広がり、イノベーションの原動力となっています。いずれはAIによって言語的な制約から解放される日が到来するかもしれませんが、現時点では同じ言語でコミュニケーションができなければ、効果的な共同研究は困難となっています。

グラフ C

英語と人財競争力

世界人財競争力指数



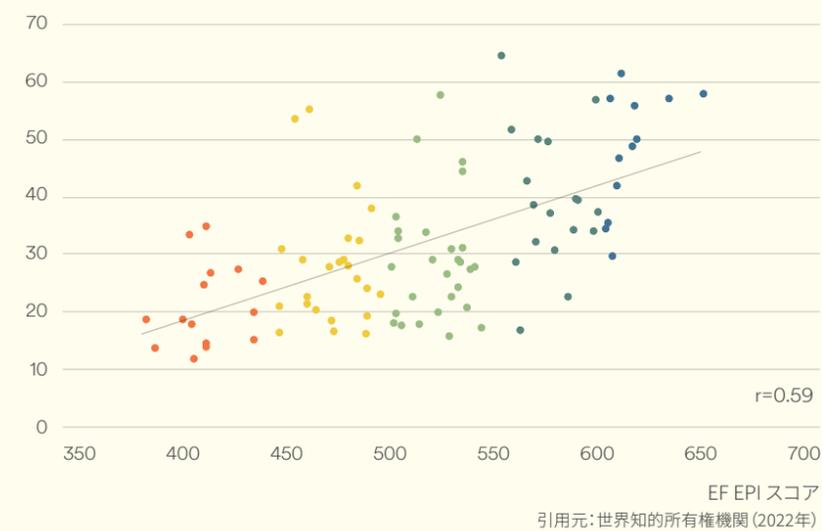
EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフ D

英語とグローバルイノベーション

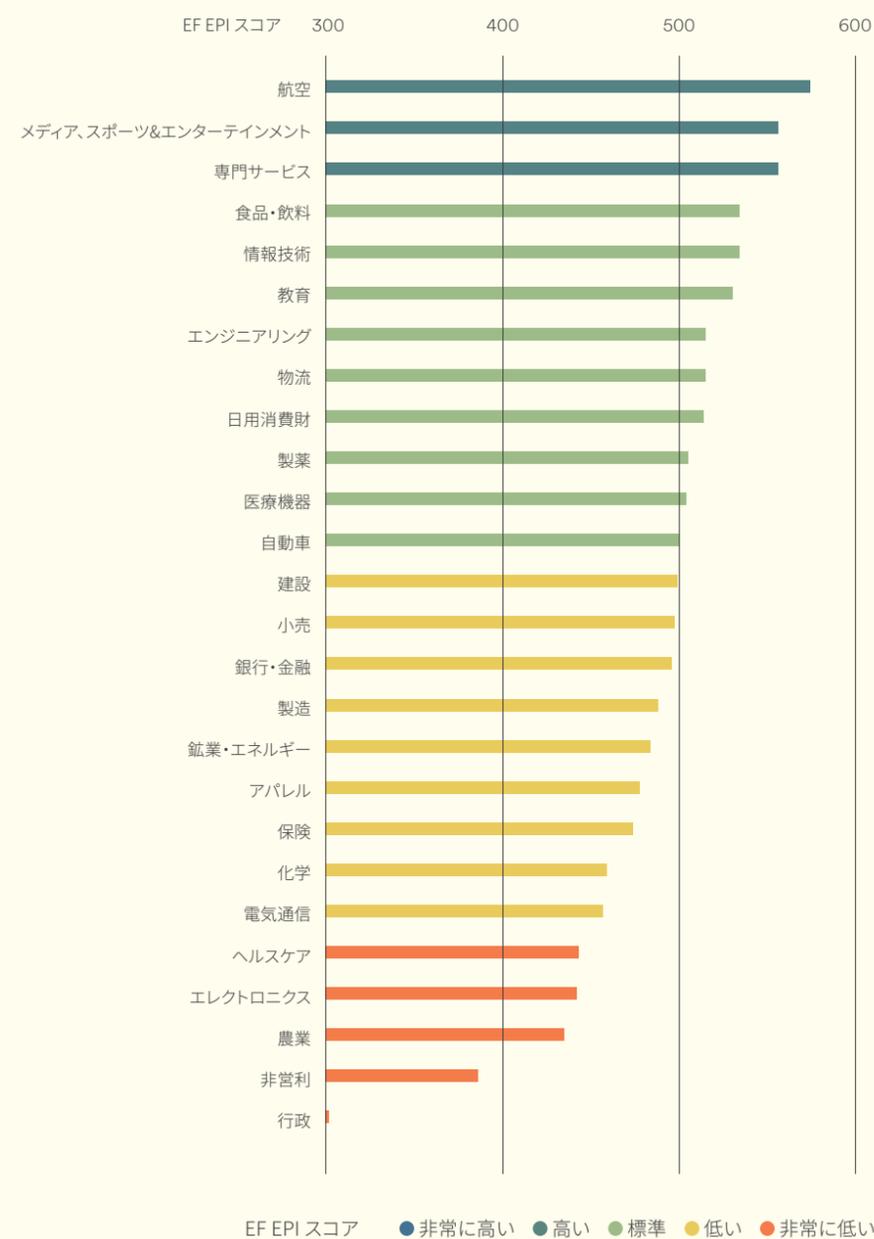
グローバルイノベーション指数



職場における英語

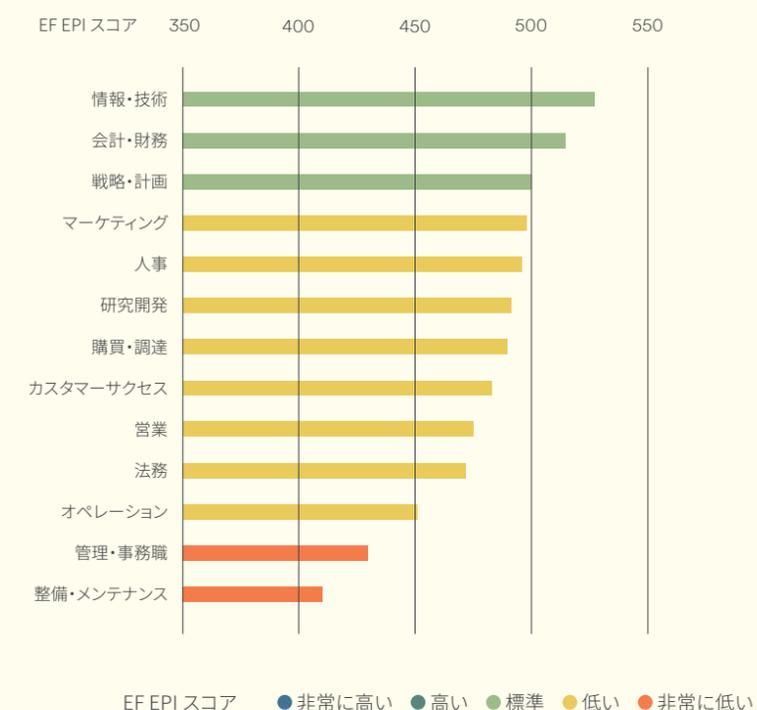
業種による英語能力の差は、雇用慣行や英語研修プログラムへの投資レベルの違いが要因であると考えられますが、あらゆる業種でグローバル統合が進み、競争が激化していることを踏まえると、民間企業でこのような傾向が見られるのはやや意外な結果だと言えます。加えて、政府機関や非営利団体では、他の民間企業よりも職員のスキルアップの機会がさらに少なく、不利益を被っていることが見て取れます。

業種別 EF EPI



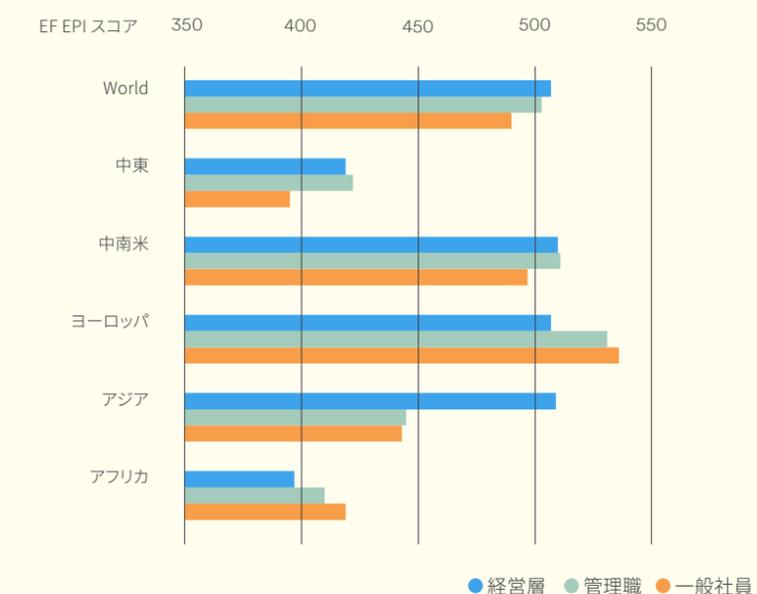
平均に満たない英語能力は、社会人にとってキャリアアップの妨げとなり、情報へのアクセスが制限される原因にもなります。より国際的なチームが集まる本社オフィスへの栄転が決まったとしても、英語を操れなければ八方塞がりとなる恐れがあり、特に英語能力に自信がなく、職場で英語を話す機会に恵まれない、メンテナンス職や事務職などの担当者にとっては深刻な問題となり得ます。こうした点に懸念を抱いている個人を特定し、適切な研修プログラムを施したうえで、異国間でのチームワークの機会を提供するなどして、組織ぐるみでサポートしていくことが肝心です。このリストの上位に挙げられているプログラミングをはじめ会計やマーケティングなどの分野は、特にリモートワークに向いていることから、これらの職種の候補者は、よりグローバルな候補者との競争に備える必要があります。

職務別 EF EPI



上級管理職における英語能力の差は、過去10年間でますます縮小傾向にありますが、その主な理由として、世代別の成人間における能力差の縮小や、高等教育とキャリアパスのグローバル化などが挙げられます。特にアジアにおいては、英語能力の高い候補者が採用される傾向が強く、さらにアジアをはじめヨーロッパやラテンアメリカの上級管理職グループが同程度の英語能力レベルを有していることも注目に値します。また、現地での採用ならびに人材育成に力を入れている国々では、上級職の能力差が今後ますます縮まっていくことが予想されます。

職位別 EF EPI



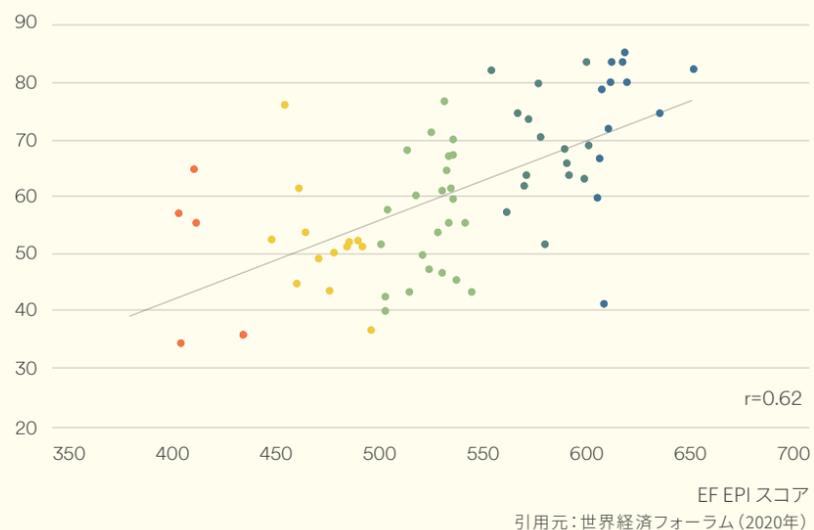
英語と社会

英語を話すことができれば、より幅広い情報へアクセスし、給与アップやより多くの教育機会につなげ、母国での労働市場に限定されることなく活躍の場を広げられるようになります。英語学習者の大半は正規の教育機関で英語の基礎を学ぶことから、他の教育同様に、質の高い英語教育への不平等なアクセスは、人々の可能性を妨げ、悪循環が悪循環をまねき、不平等な環境を次世代へと引き継ぐ原因にもなり得ます。

グラフE

英語とソーシャル・モビリティ(社会的流動性)

世界社会的流動性指数



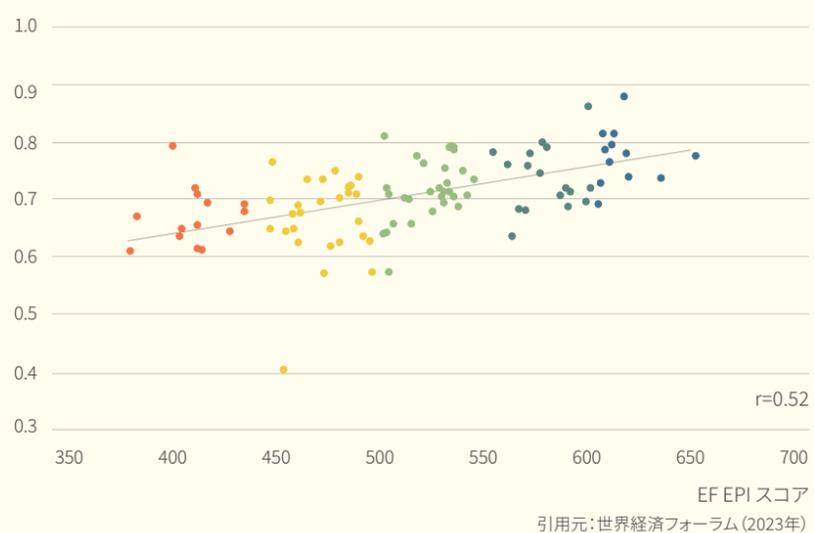
EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフF

英語と男女平等

グローバル・ジェンダー・ギャップ指数(逆数)



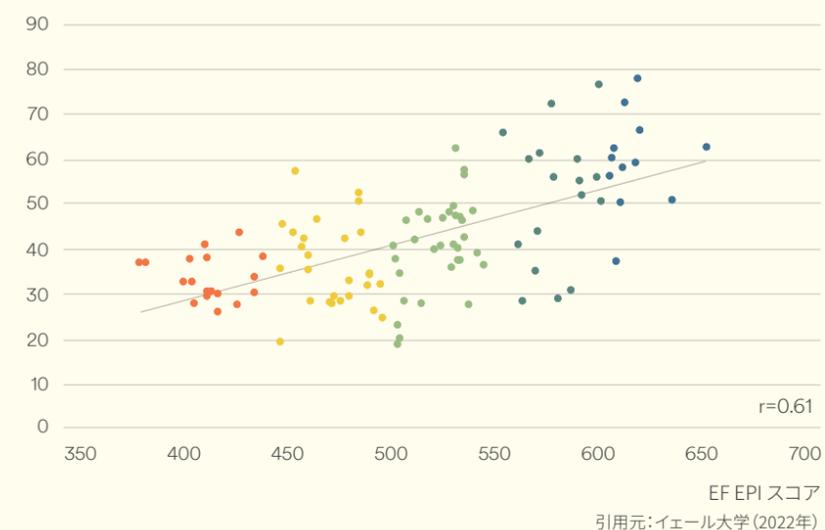
英語と未来

高い英語能力があれば、留学やグローバル企業への就職、国際的な研究への参画が可能になるだけでなく、これまでになじみのなかった人々と交流し、そうした人々のライフスタイルや優先順位、不平等な状況、将来の夢などについて理解を深めることが可能になります。このような「つながりあった」世界から生まれる価値は計り知れませんが、気候危機のような地球規模の脅威に立ち向かうためにも、国際連帯と協力のレベルを高めていくことが不可欠となっています。

グラフG

英語と環境

環境パフォーマンス指数



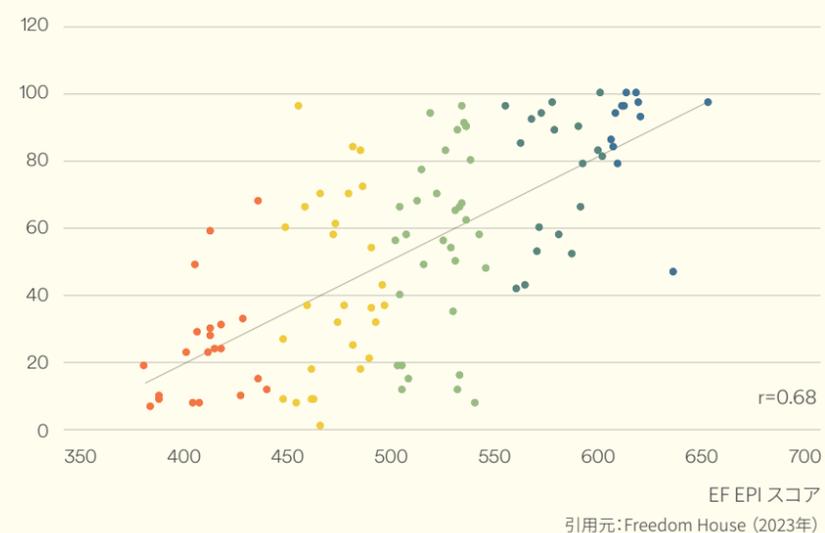
EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフH

英語と自由

世界自由度スコア



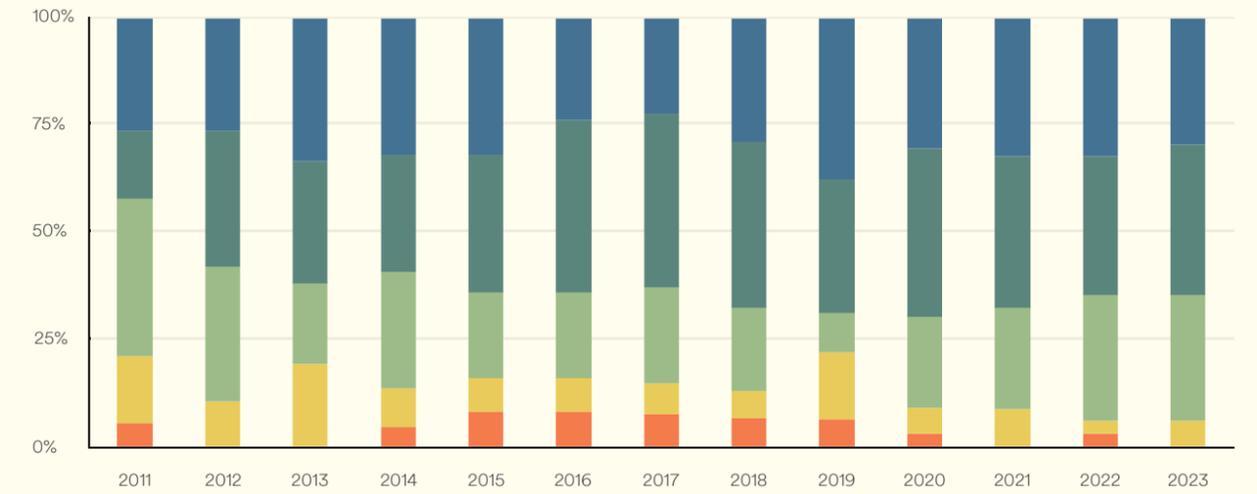
ヨーロッパ

EF EPI ランキング

01 オランダ	647	15 ルーマニア	596	35 イタリア	535
03 オーストリア	616	16 ブルガリア	589	35 モルドバ	535
04 デンマーク	615	17 ハンガリー	588	35 スペイン	535
05 ノルウェー	614	18 スロバキア	587	39 アルバニア	533
06 スウェーデン	609	21 リトアニア	576	41 ロシア	532
07 ベルギー	608	22 ルクセンブルク	575	43 フランス	531
08 ポルトガル	607	23 エストニア	570	45 ウクライナ	530
10 ドイツ	604	24 セルビア	569	48 アルメニア	528
11 クロアチア	603	26 チェコ共和国	565	66 トルコ	493
12 ギリシャ	602	30 スイス	553	83 アゼルバイジャン	463
13 ポーランド	598	32 ジョージア	541		
14 フィンランド	597	33 ベラルーシ	539		

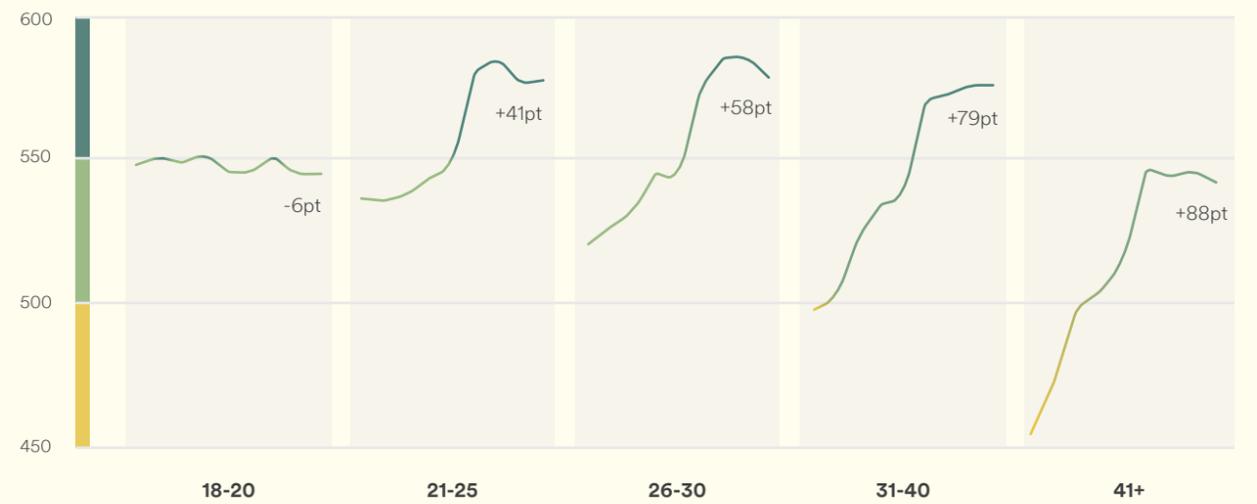
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2011 - 2023)

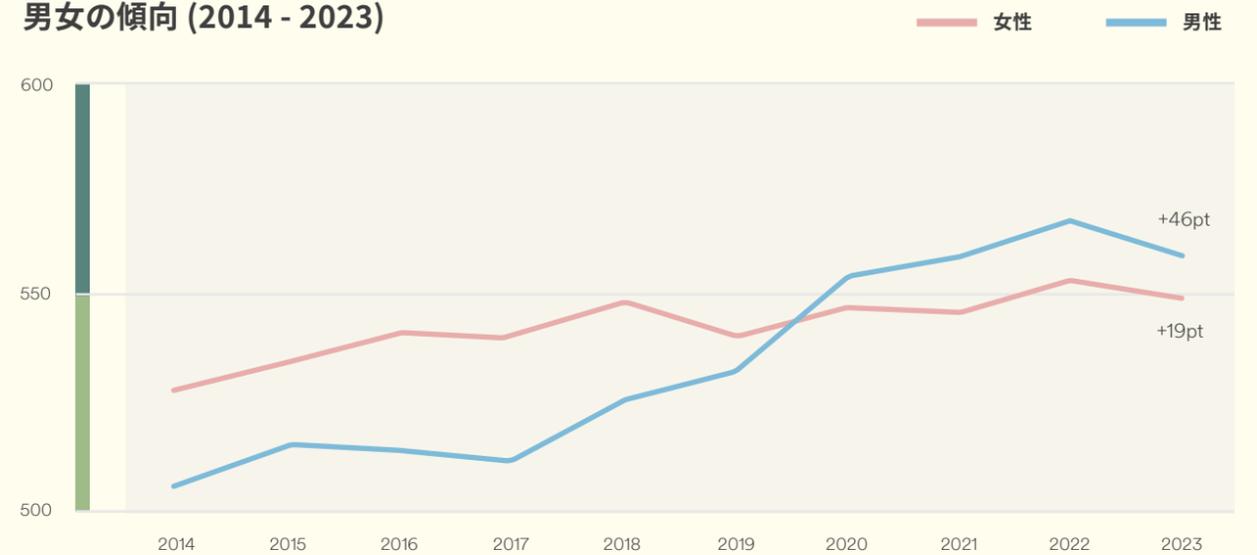


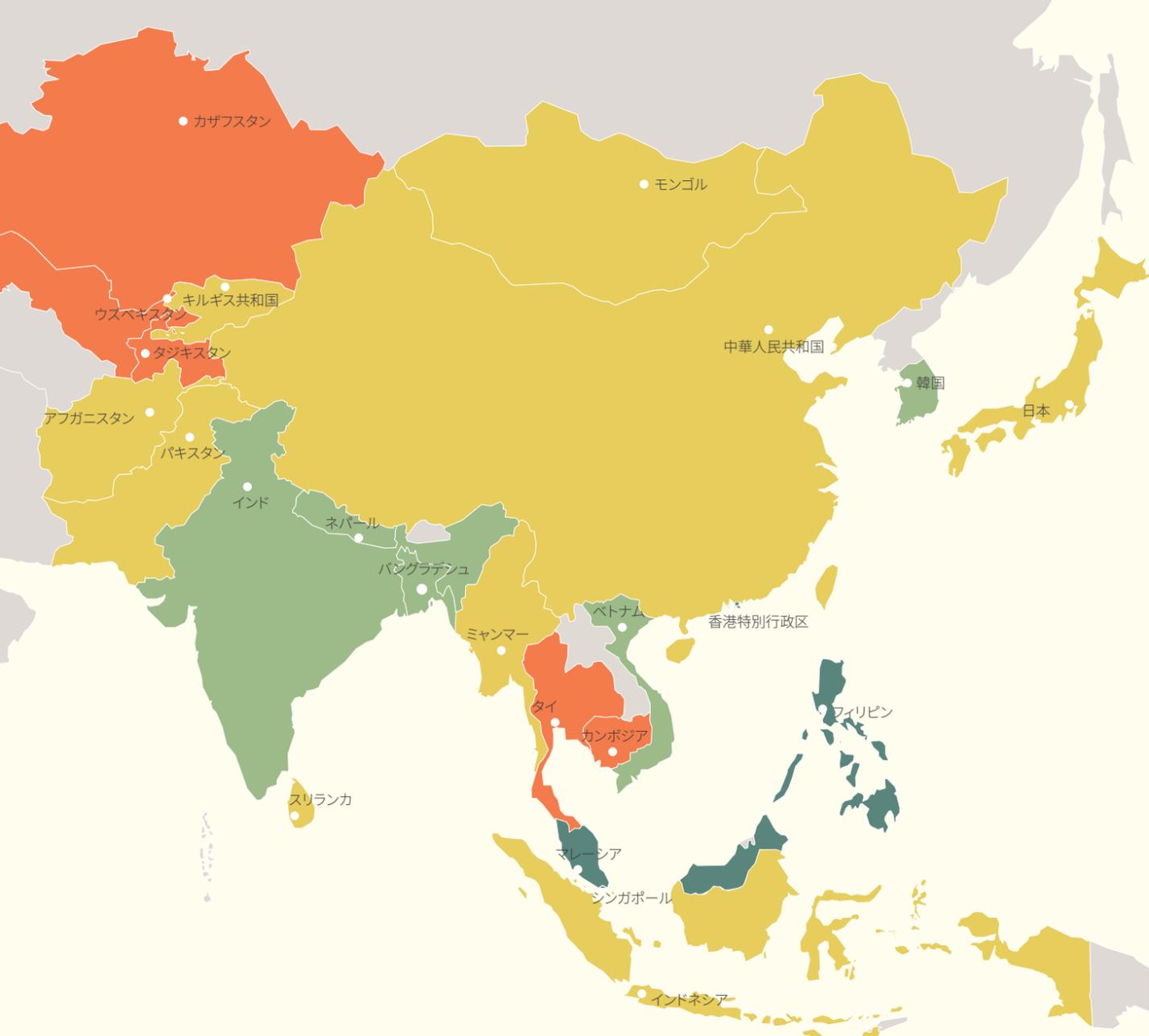
各能力レベルに占める欧州諸国の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2015 - 2023)



男女の傾向 (2014 - 2023)





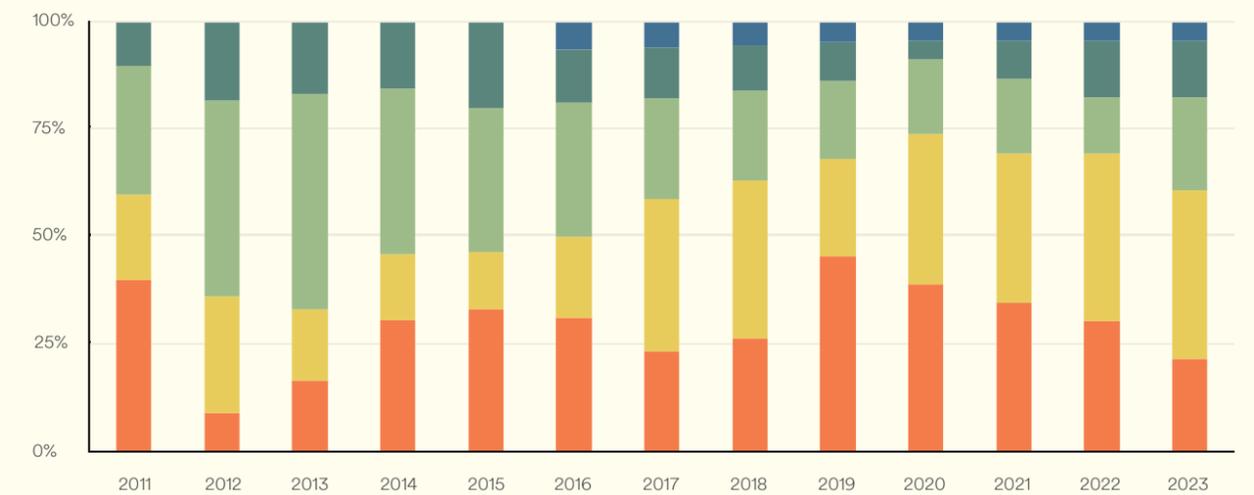
アジア

EF EPI ランキング

2	シンガポール	631	64	パキスタン	497	93	ウズベキスタン	442
20	フィリピン	578	67	スリランカ	491	98	カンボジア	421
25	マレーシア	568	73	モンゴル	482	101	タイ	416
29	香港特別行政区	558	79	インドネシア	473	104	カザフスタン	415
49	韓国	525	82	中華人民共和国	464	112	タジキスタン	388
57	ネパール	507	87	日本	457			
58	ベトナム	505	88	アフガニスタン	456			
60	バングラデシュ	504	90	キルギス共和国	450			
60	インド	504	90	ミャンマー	450			

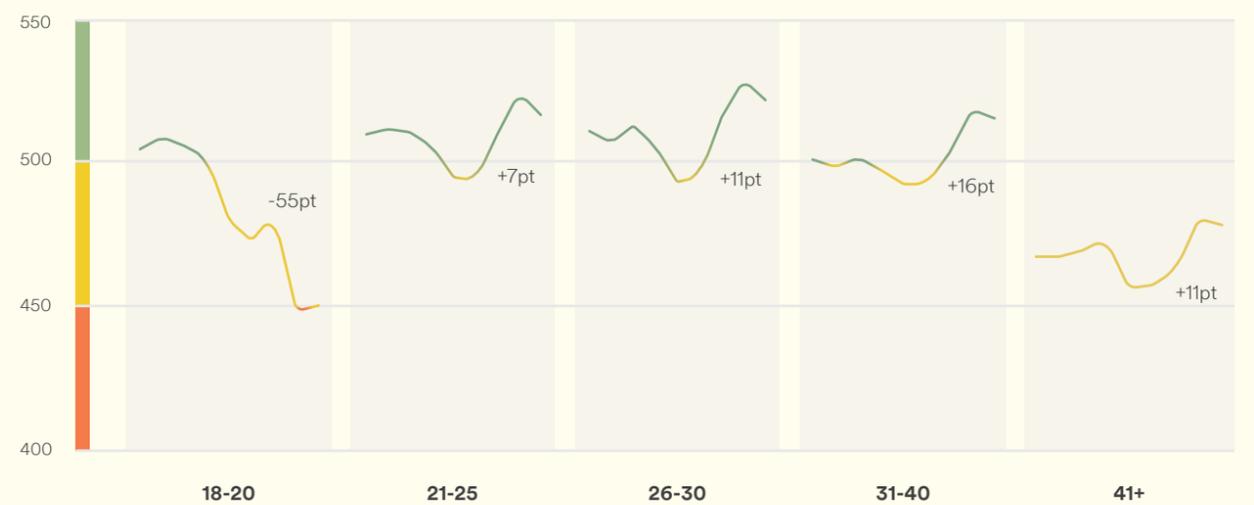
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2011 - 2023)

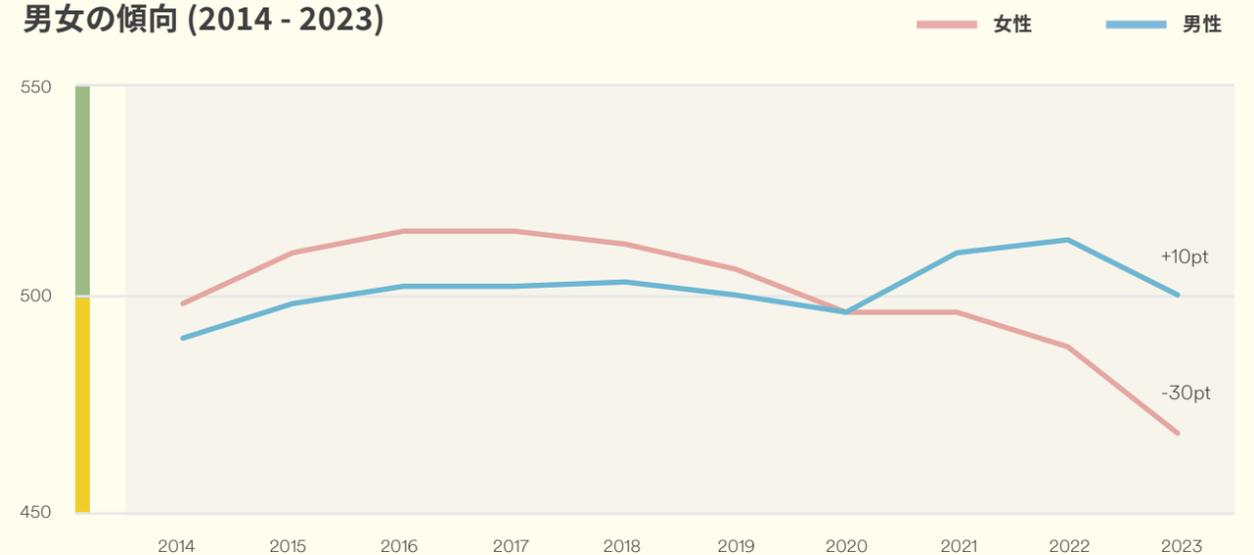


各能力レベルに占めるアジア諸国・地域の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2015 - 2023)



男女の傾向 (2014 - 2023)



中南米

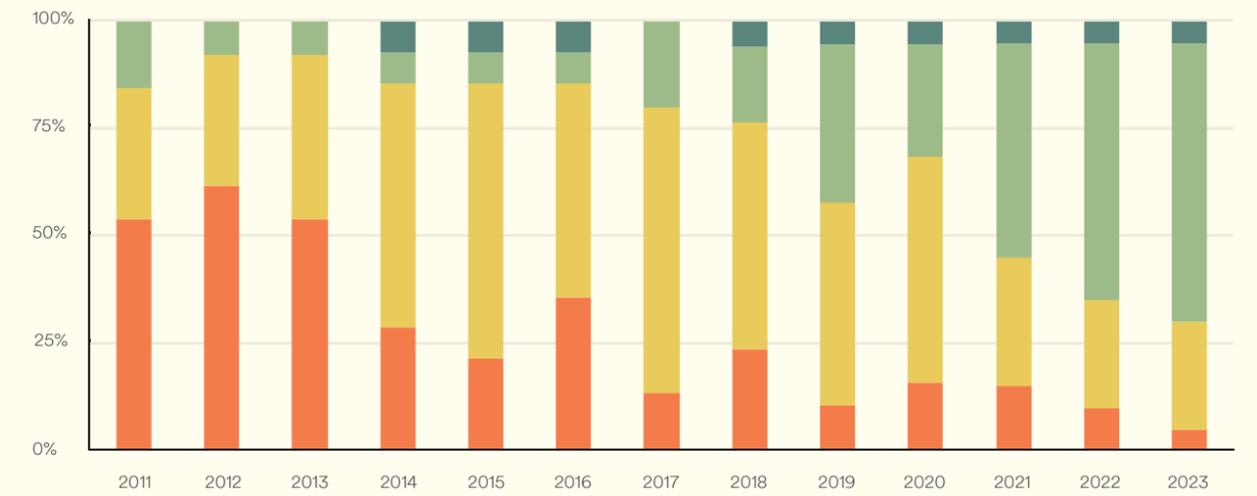


EF EPI ランキング

28	アルゼンチン	560	53	グアテマラ	515
31	ホンジュラス	544	55	ドミニカ共和国	512
38	コスタリカ	534	56	ベネズエラ	508
39	ウルグアイ	533	62	ニカラグア	503
41	ボリビア	532	70	ブラジル	487
43	キューバ	531	71	パナマ	486
45	パラグアイ	530	75	コロンビア	480
50	エルサルバドル	524	80	エクアドル	467
51	ペルー	521	89	メキシコ	451
52	チリ	518	98	ハイチ	421

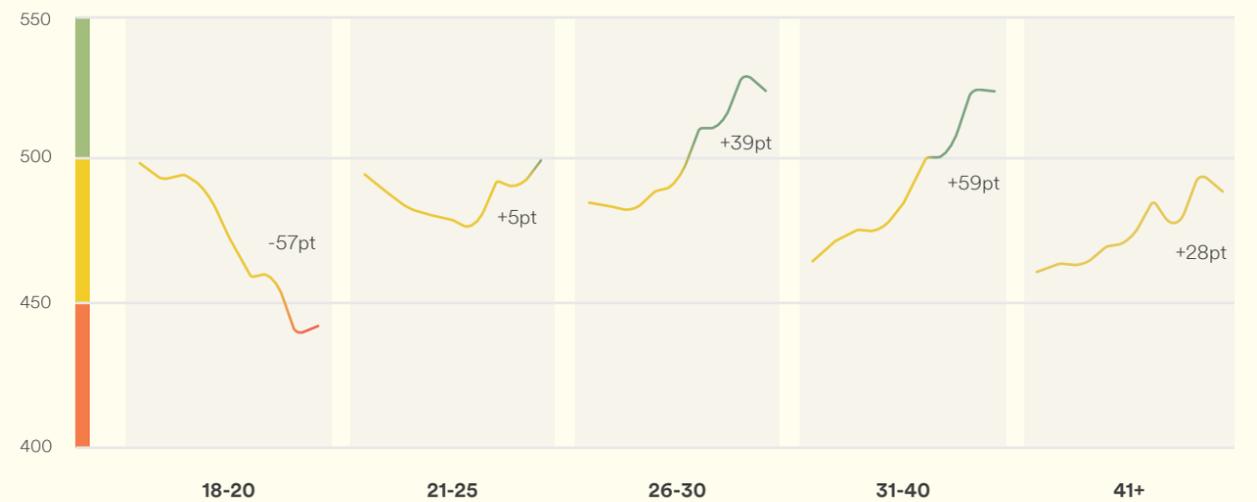
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2011 - 2023)

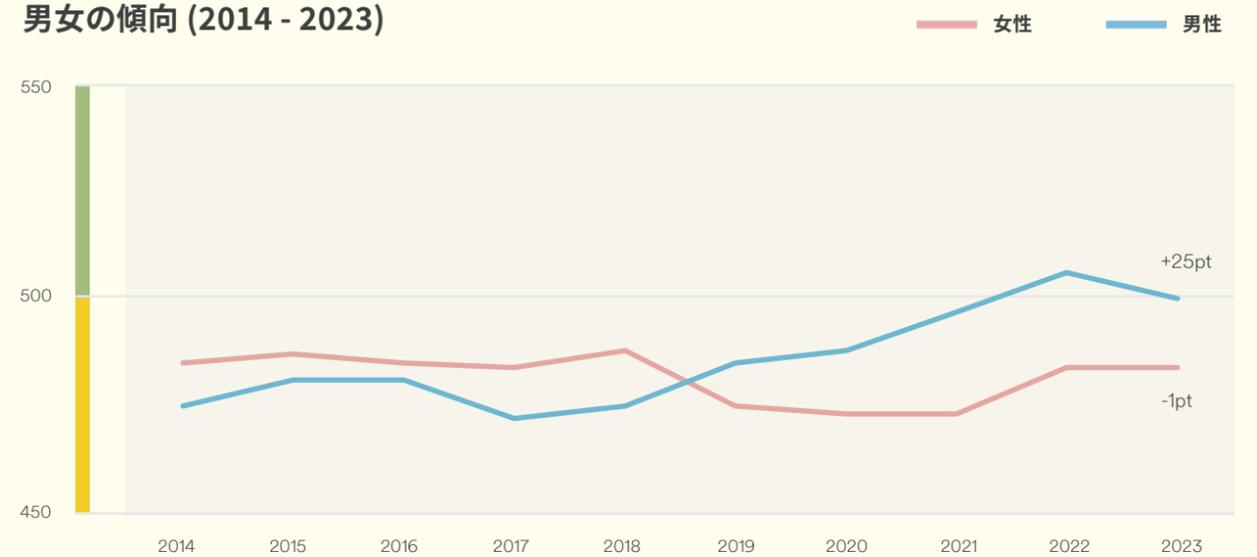


各能力レベルに占めるラテンアメリカ諸国の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2015 - 2023)



男女の傾向 (2014 - 2023)



アフリカ

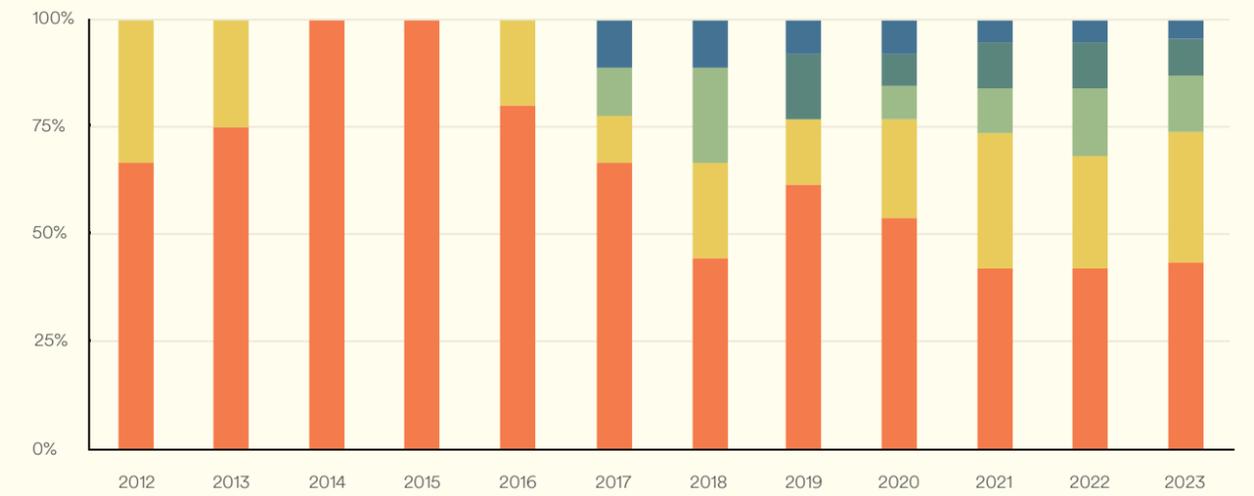


EF EPI ランキング

9	南アフリカ	605	78	マダガスカル	474	109	ルワンダ	405
19	ケニア	584	83	エジプト	463	110	リビア	392
27	ナイジェリア	562	86	マラウイ	460	113	コンゴ民主共和国	385
34	ガーナ	537	94	カメルーン	438			
47	ウガンダ	529	94	セネガル	438			
63	チュニジア	502	97	スーダン	430			
67	タンザニア	491	101	アンゴラ	416			
69	エチオピア	490	101	ベナン	416			
76	モロッコ	478	105	ソマリア	411			
77	アルジェリア	475	107	コートジボワール	409			

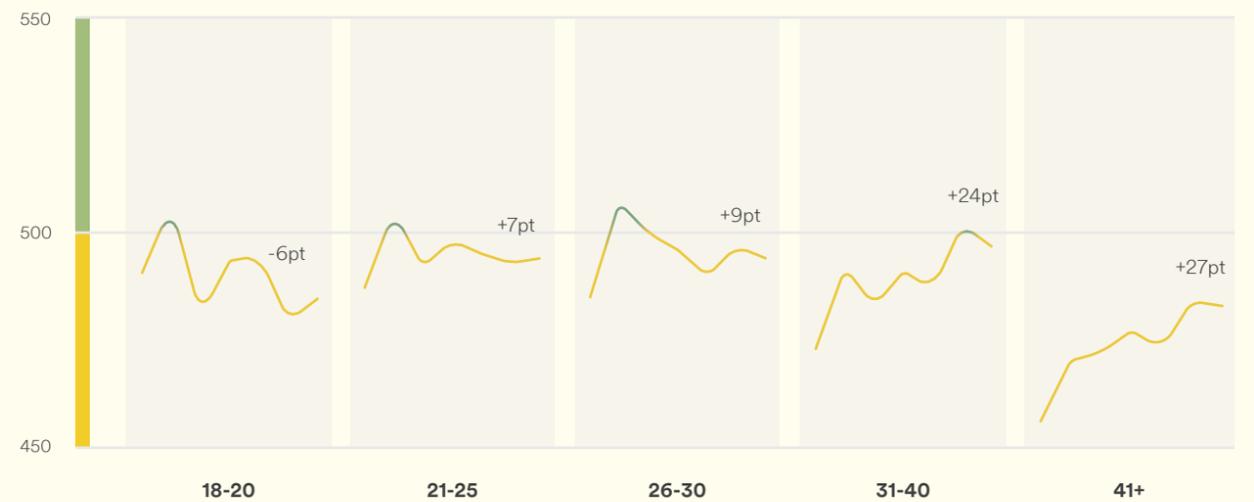
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2012 - 2023)

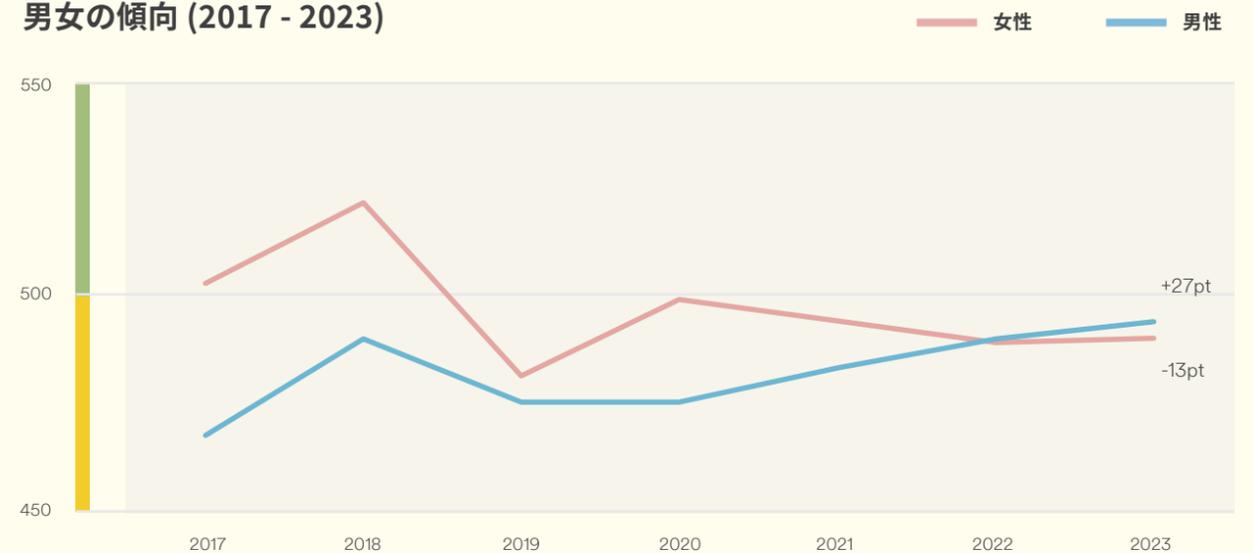


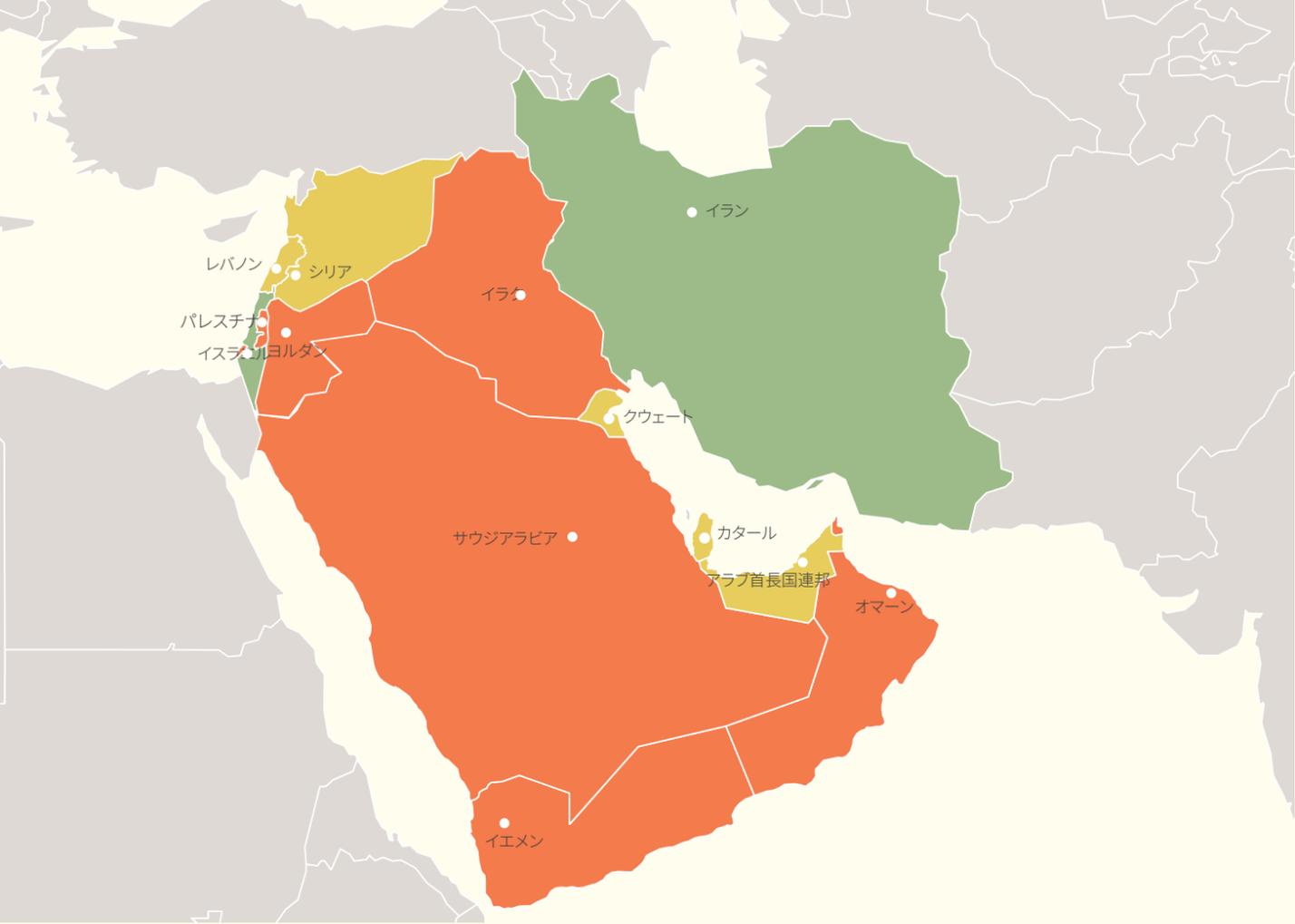
各能力レベルに占めるアフリカ諸国の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2017 - 2023)



男女の傾向 (2017 - 2023)





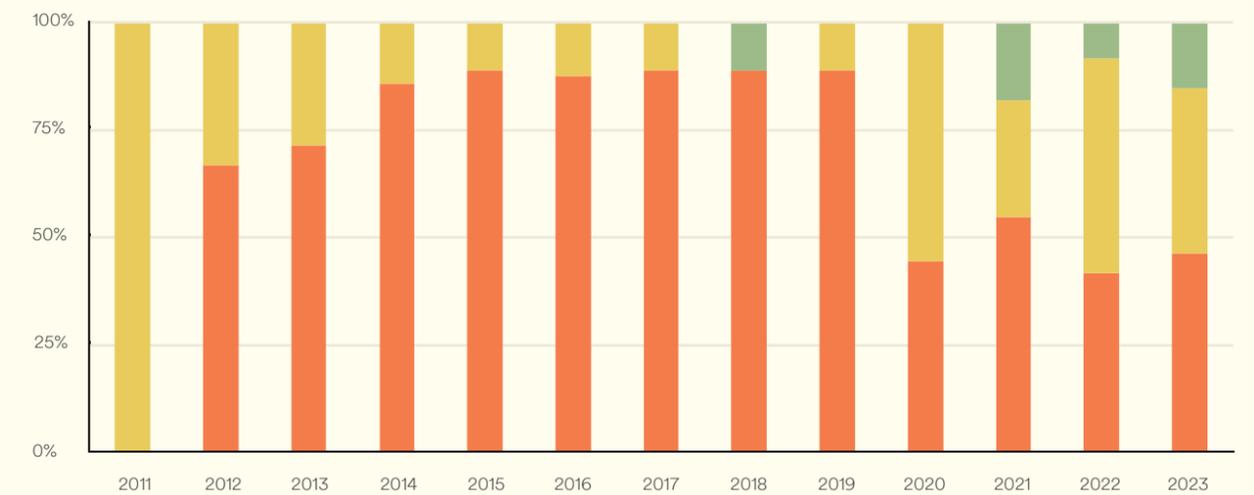
中東

EF EPI ランキング

54	イスラエル	514	92	パレスチナ	445
58	イラン	505	96	ヨルダン	431
65	レバノン	496	100	オマーン	418
71	アラブ首長国連邦	486	106	イラク	410
73	カタール	482	108	サウジアラビア	408
80	シリア	467	110	イエメン	392
85	クウェート	461			

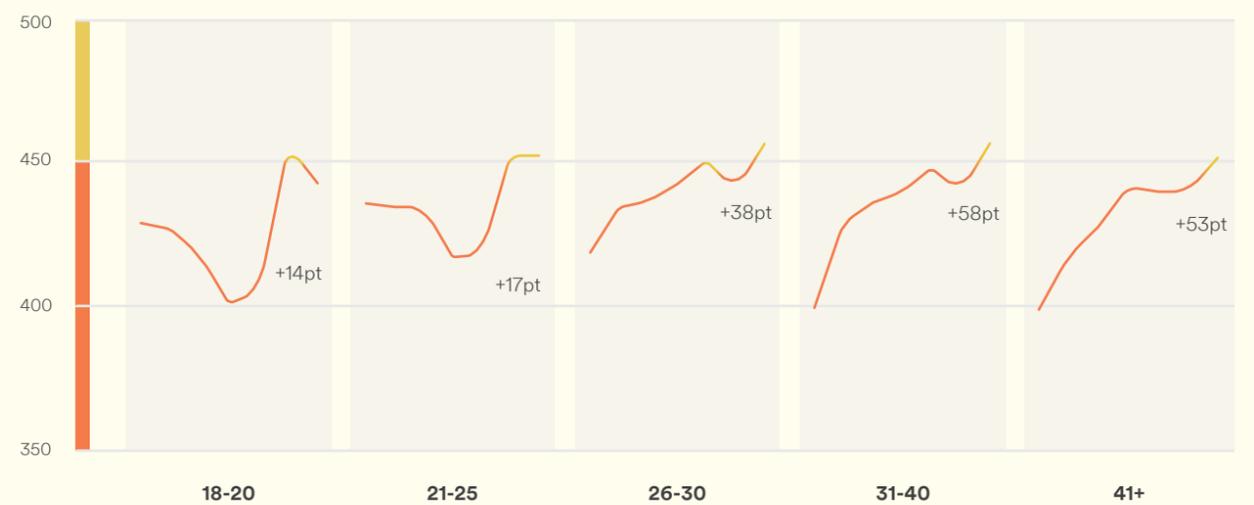
EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

英語能力レベルの分布 (2011 - 2023)

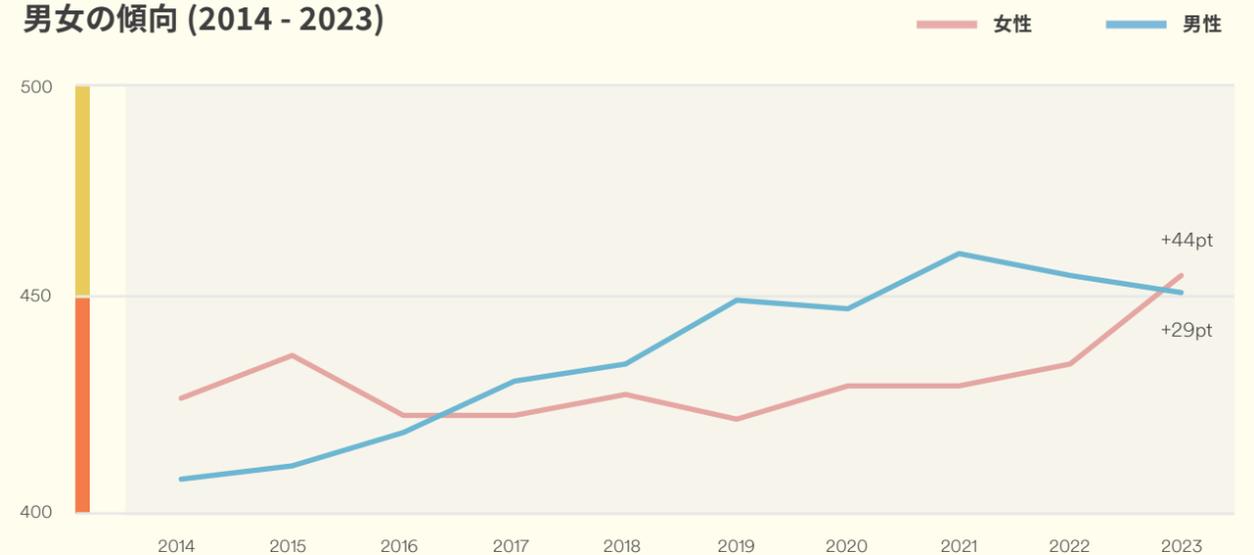


各能力レベルに占める中東諸国の割合 (経年推移)

世代間の傾向 (2017 - 2023)

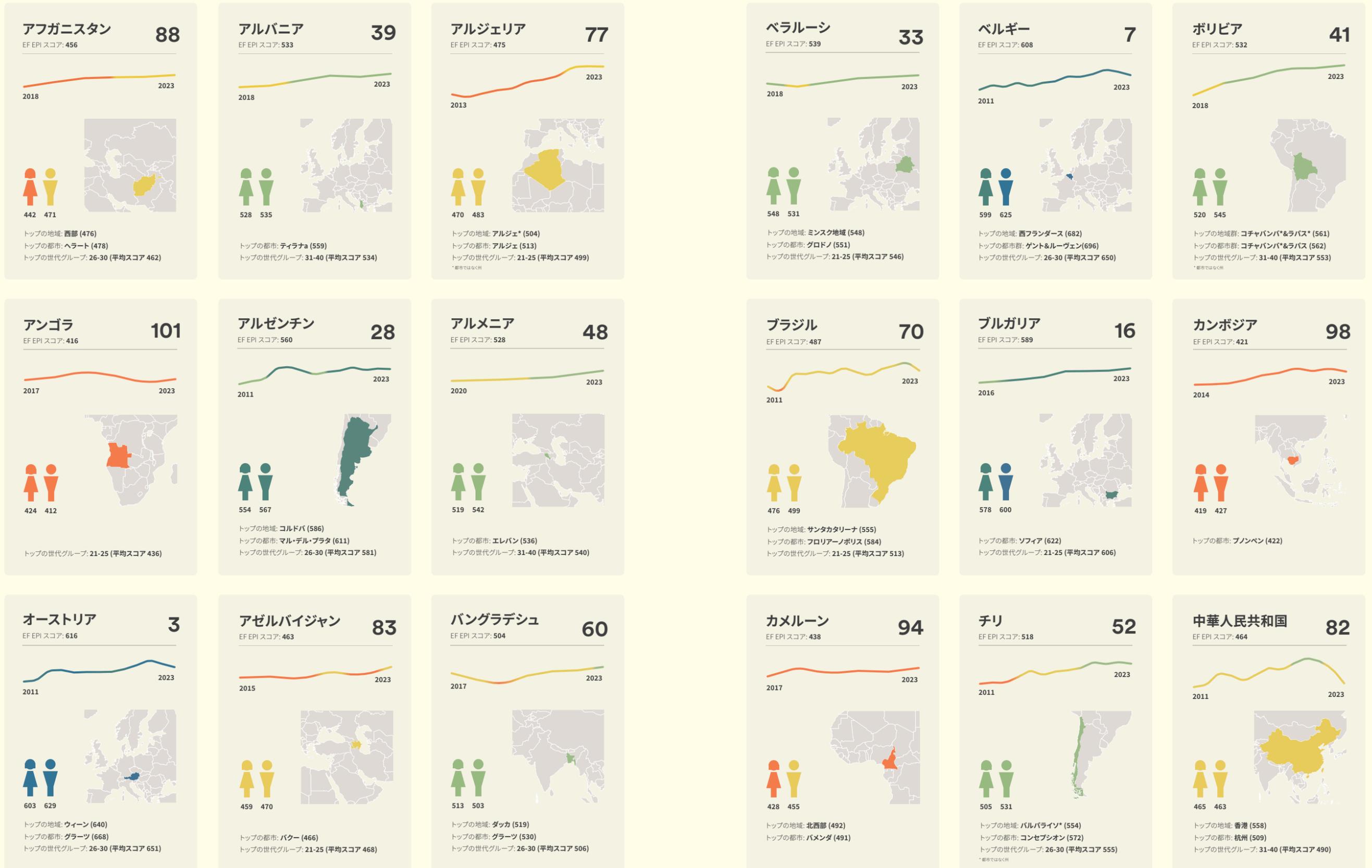


男女の傾向 (2014 - 2023)



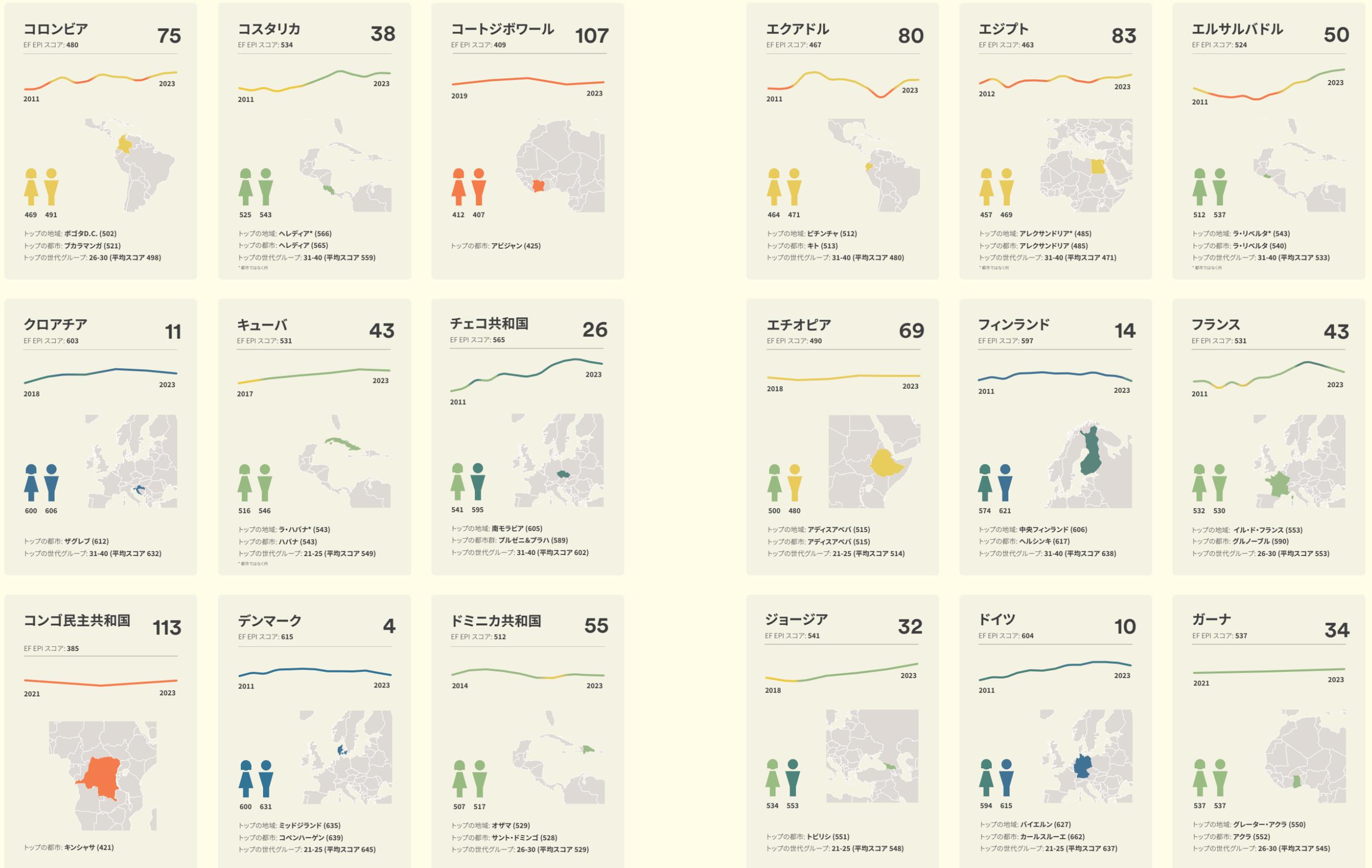
英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



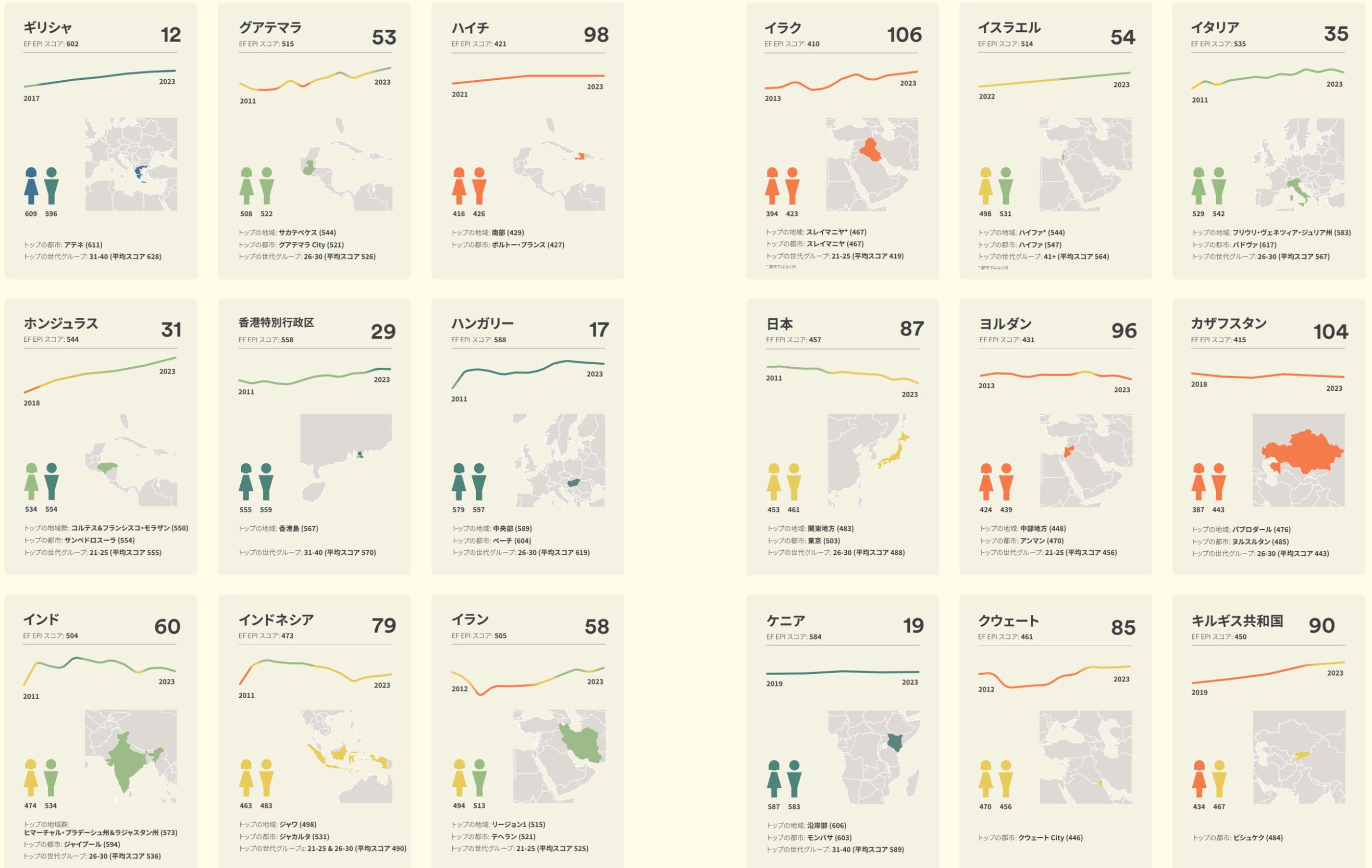
英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



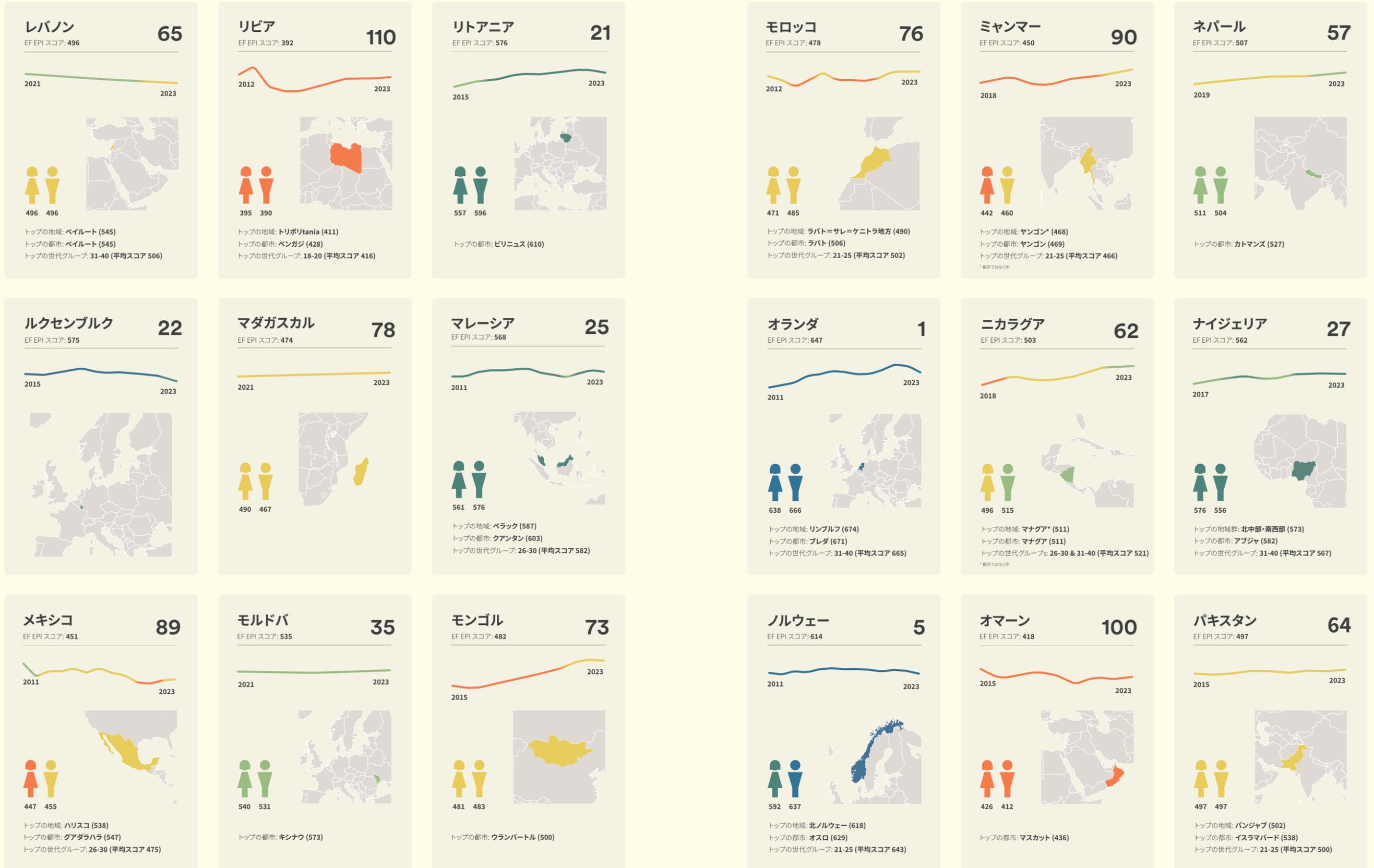
英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



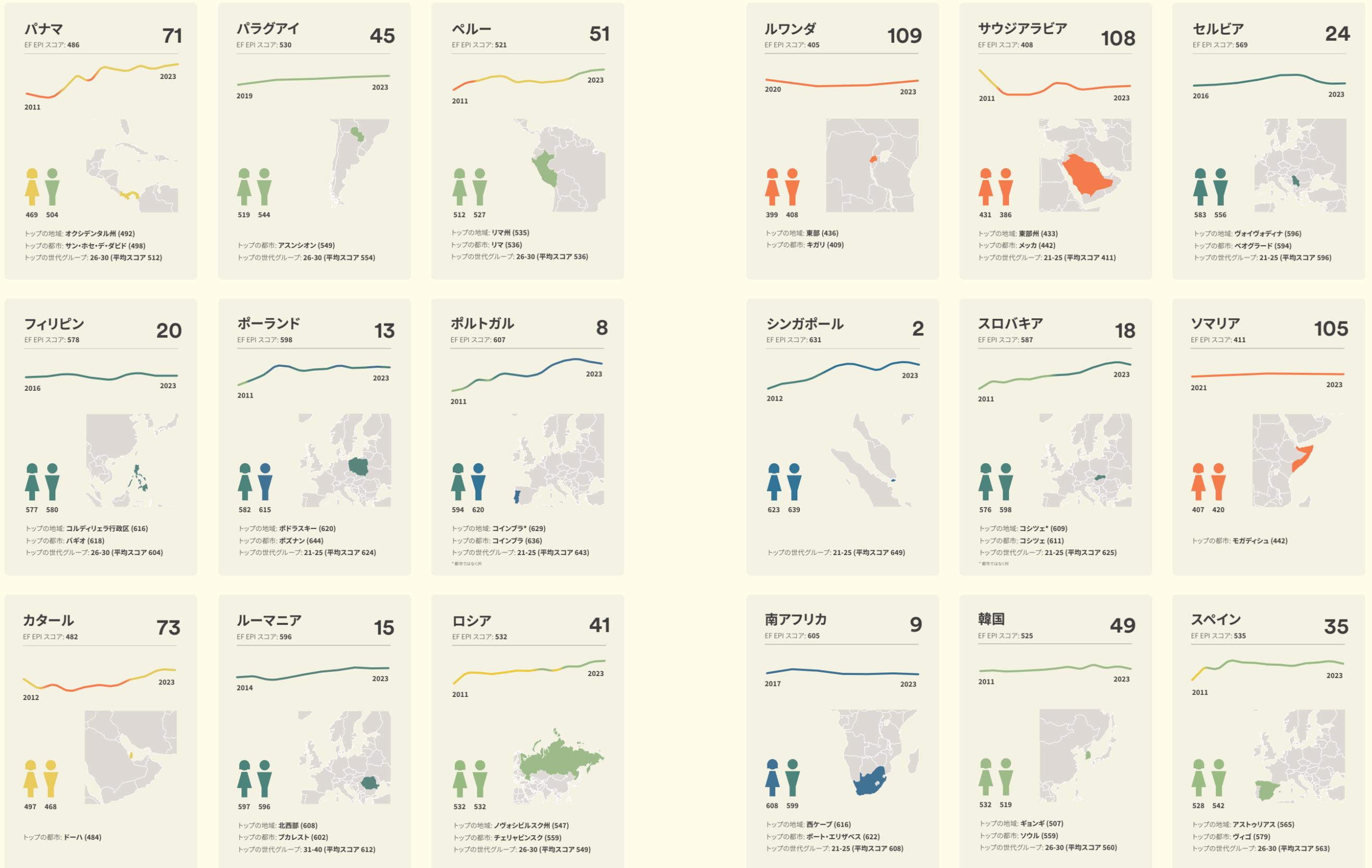
英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



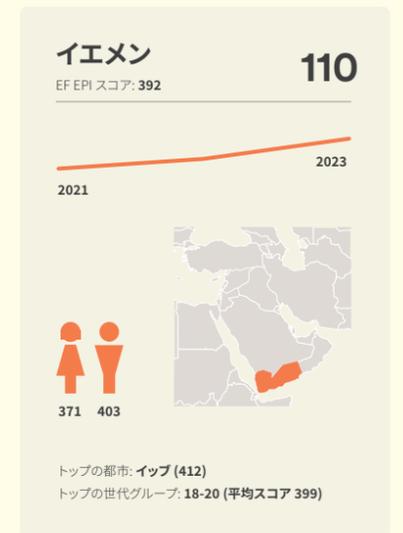
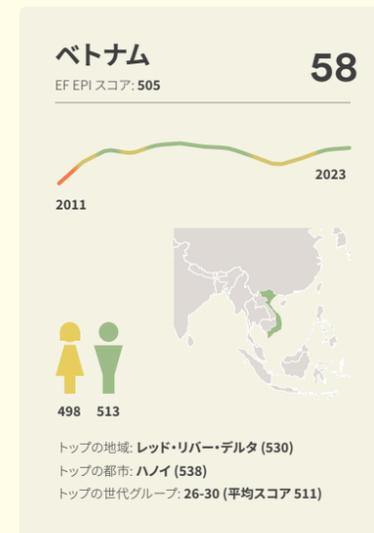
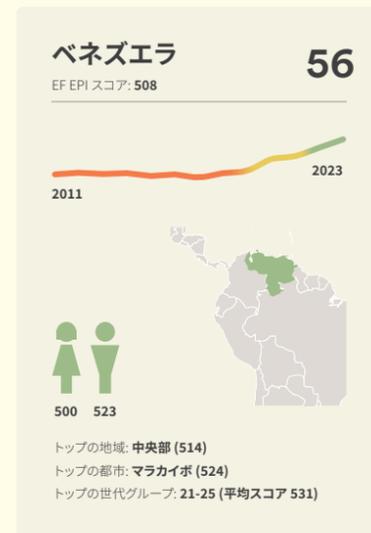
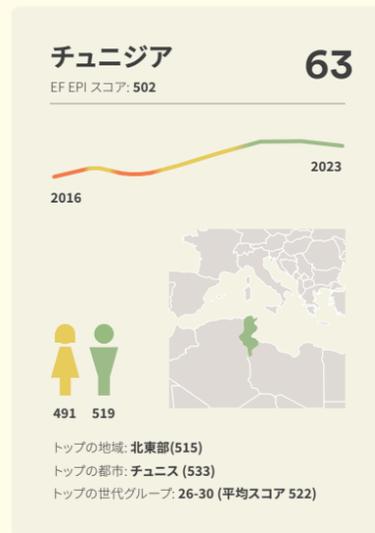
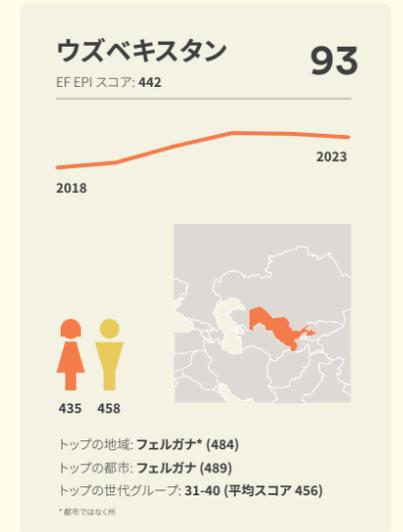
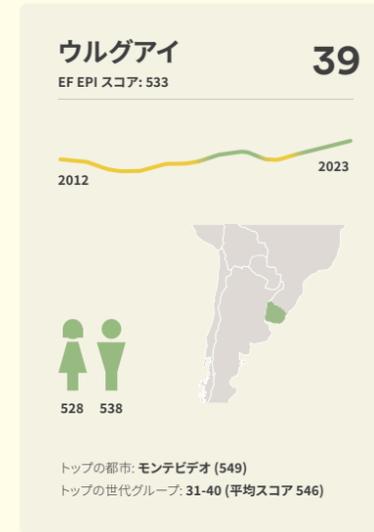
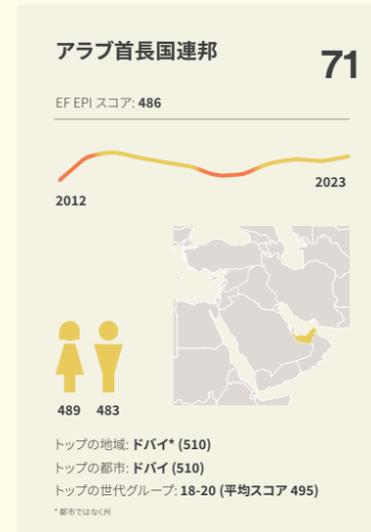
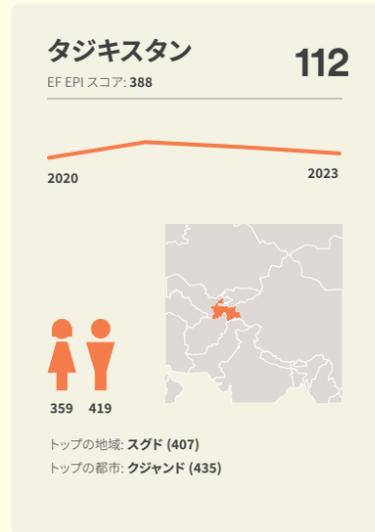
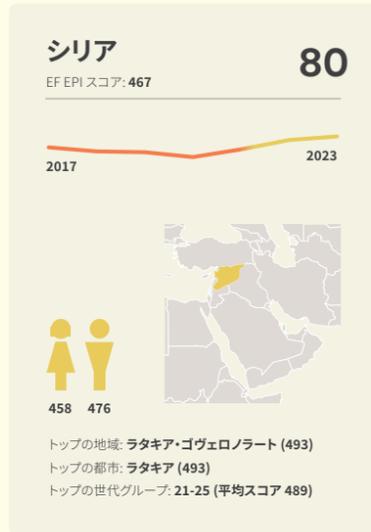
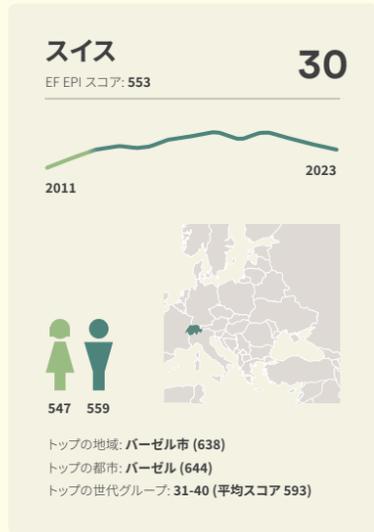
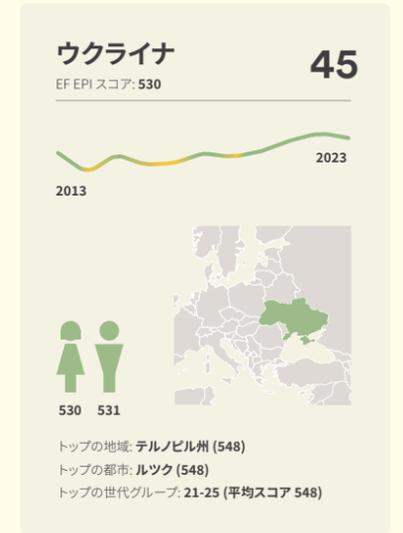
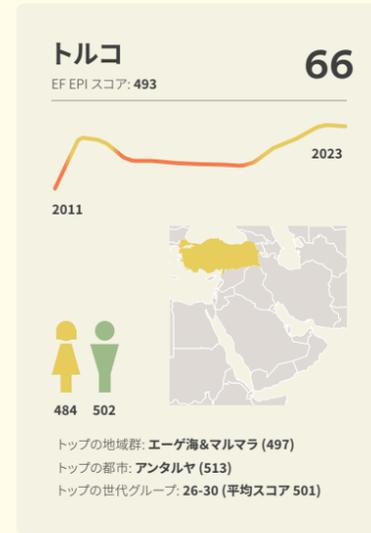
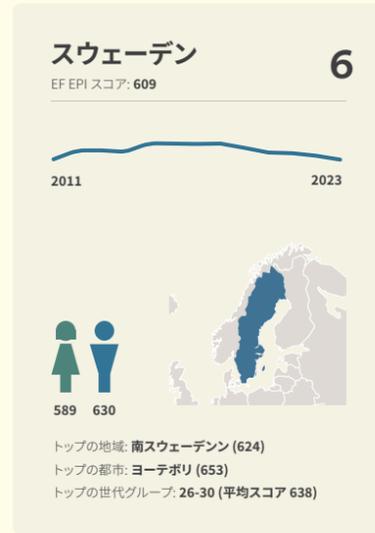
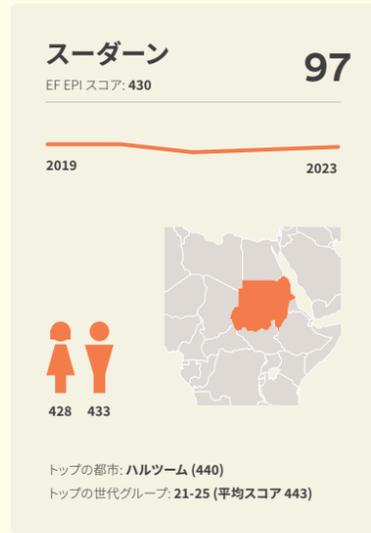
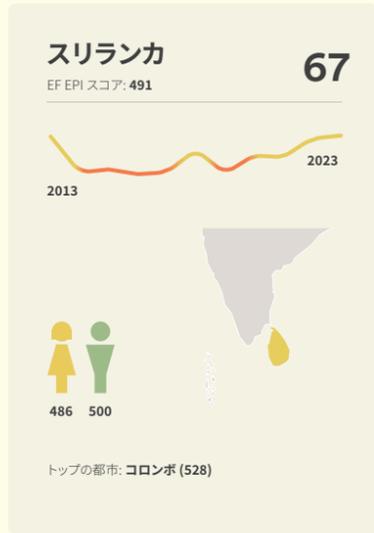
英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



結論

過去10年間、英語能力に対する必要性が高まり、かつて以上の投資が行われてきたにもかかわらず、世界の英語能力レベルに大きな変化が見られないことは、言語を習得し、持続的な進歩を遂げることがいかに難しいかを物語っています。また、このような表面的な安定によって、地域や国レベルでのばらつきや、特定の世代や性別グループにおける得失があやふやになりがちです。しかし、こうした変化がグローバル政策の結果である限り、本テストのデータは、その政策の妥当性を検証し、定義づけをする上で有用なものとなります。

今、英語を必要とする人々に英語教育を提供
一般的なイメージとはうらはらに、成人してからでも高い水準の語学能力を身につけることはできますが、それに必要なトレーニングやエクササイズ量は少なく見積もられがちです。最適な学習環境下であっても、成人がCEFRを1レベル上へ到達するには、約150時間のトレーニングをこなす必要があります。例えば、初心者が週2時間の英語指導を受けた場合、B1レベルに達するには約3年かかることになりませんが、成人の語学研修プログラムがそれほど長く続くことはめったにありません。成人向けトレーニングにおいて、現実的なゴールを設定し、組織と個人が目標と投資を一致させたいことで取り組むことが重要です。

成人の英語教育にはさまざまな形態がありますが、最近ではガイド付きの自習と教師の指導を組み合わせ、学習者にオンデマンドかつコミュニケーションベースの体験をリーズナブルな価格で提供するプラットフォームが、最も効果的で大規模に拡張できるソリューションとして注目されています。また、こうしたプラットフォームをAIを活用することでレベルの高い学習経験が可能となり、学習者の作成した文書をAIが添削したり、その添削の内容を何度で

も、さまざまなアプローチで解説することも可能になっています。このような生成AIとの没入的なやりとりをすることで、会話の機会に恵まれない学習者でもランゲージエクステンションのようなリアルな学習体験を実現できます。さらに、AIコースの管理者が、学習者に適切なタイミングで課題の修正を促し、学習継続率の維持や、モチベーションが低下している学生の特定に役立てることもできるようになっています。

教育成果に関する研究によれば、生徒と教師の絆は最も目に見える形で達成度を感じられる尺度の一つとなっています。組織における語学学習の推進においては、モチベーションを高める社会環境を提供することで、さまざまな価値を得られるようになります。独学で英語を学ぶ学習者が、そのような環境で没頭できる学習プラットフォームを利用できることが重要です。成功するためには、他者が自分の成功を気にかけてくれていると感じられる必要があります。MOOC（大規模公開オンライン講座）の登場によって、誰もがロケットサイエンティストになれるわけではないように、情報を提供するだけでは十分ではありません。

後に英語を必要とする人たちにを支援する
義務教育や大学でしっかりとした英語教育を行うことが、成人の英語能力を長期的に向上させる最も効果的な方法です。このような野心的なカリキュラム改革を進めるには、まずは教師のトレーニングから始めることが一般的です。教師も他の成人同様に、学習によって英語能力を高いレベルまで向上させることができますが、それには時間がかかるだけでなく、やる気を起こさせる環境やトレーニング、実践の場が求められます。企業向けの語学学習ソリューションは、教師の英語能力強化にも効果的ですが、企業の経営ビジョンと研修プロジェクトに対し強い社会的関連性が、プロジェクトの成功に必然的に影響するという点に注意を向ける必要があります。

教師は、会社員のようにチームとして団結することは難しいかもしれませんが、専門能力開発プロジェクトを成功させる鍵は、互いのモチベーションを高められる、強い絆で結ばれた学習者集団を結成することにあります。

英語能力に加え、コミュニケーション・メソッドに関するトレーニングを受けたことのない教師にとって、その分野の専門的な開発と指導は欠くことのできないものです。語学クラスの人数が多い場合、生徒が英語を話す時間がほとんどないといったこともよくあり、このような課題に対処するためのテクニックは、特別な注意を払うに値するものです。ただし、これまで他のメソッドで指導してきた教師の習慣を変えるためには、特別な励ましが必要となるかもしれません。

義務教育や大学の英語の授業においては、もちろんテクノロジーも重要な役割を担っています。中でも、英語メディアや参加型のソーシャルスペースを活用して、学生が自律的にスキルアップする方法を教えることは、学生の可能性を広げるうえで興味深いものとなるでしょう。多くの英語教師が授業に現代的なエッセンスを加えるために教室でメディアを活用していますが、ほとんどの若者が毎日英語メディアに触れていることを考えると、学生が教育をエンターテインメントに変えられるツールを使いこなせるように手助けすることは、強力な視点の転換になります。生成AIも同様に、生徒が学習目的での使い方を学べば、個人的な言語コーチやコピーエディターとして使うことが可能になります。

試験の影響性

多くの国で、卒業試験や大学入学試験が、教育制度で望まれる成果に授業時間を集中させるために有効な手段となっています。その目標のひとつが若者たちに英語でのコミュニケーション方法を教えることであるならば、試験においてもそのスキルを試すことが肝心です。翻訳、語彙、文法などを試す試験だけを行うばかりでは、教師が授業時間の大半をそれらの科目に費やすようになってしまいます。また、英語だけに焦点を当てるのではなく、他の科目との相対的な重要性を考慮することが重要です。

英語圏の大学への留学を希望する学生にとって、TOEFLなどの標準英語試験に必要なスコアを取得することは、出費がかさむだけでなく、大きなストレスの原因にもなります。学生は多額の受験料を払い、試験会場まで（時には他国まで、または保護者の付き添い付きで）足を運ばなければなりません。こうした英語試験は、多数の外国人志願者を自動的に選別する必要がある入試チームにとっては便利なものですが、法外な費用がかかるだけでなく、学生の多様な能力を測ることが難しいため、多くの大学でSATやその他の全国統一試験離れが進んでいるのと同様に、一律での採用を再考する時期に来ていると考えられます。

言語の多様性を活かす

子どもたちが潜在能力を最大限に発揮するためには、まず母国語での読み書きを学ぶことが大前提となります。英語が一般的な教育手段であるものの、家庭でほとんど話されていない、あるいは学校で使われている言語とは

異なる言語が話されている場合は、英語やそれらの他の言語を優先して母語を軽視するのではなく、生徒の多言語性を育むべく、慎重なアプローチを検討すべきです。幼い子どもたちが母国語での読み書きを学ぶことで、教育の成果は向上します。さらに、多言語を操る労働力は、単一言語しか操れない労働力よりも適応力や臨機応変さに優れているという強みもあります。

英語は歴史的にいくつかの国とつながりがあるものの、今日英語を話す人の大半はそのような国の出身ではありません。英語の規範を定める国際機関は存在せず、それこそが世界共通語としての英語の魅力だと言えます。しかし残念なことに、英語もフランス語やロシア語などと同様に政治の影響を受けることがあり、その影響言語保護主義から広範なナショナルリズム的アジェンダにまで及ぶことがあります。

バイリンガルの幼稚園や放課後の英語プログラムだけでなく、夏休みの海外旅行や家庭教師など、多くの親が、子どもの英語能力向上のために多様な選択肢に多額の資金を費やしていたり、国営の社会人向けの教育制度が設けられている国で、英語コースが最優先事項となっていたりすることからも、英語を話すことで個人がいかに絶大なメリットを得られるようになるかは明らかです。

英語を話すことは大きなチャンスを得ることにつながるため、誰もがこの機会を与えられるべきだと考えます。

提言

多くの組織や個人が英語能力向上のメリットを認識しているが、その目標を達成する最適なアプローチを熟知している人は多くはない。以下、一般的な推奨事項をご紹介します：

企業向け

- 各人財に対して、現在の英語能力と目標の英語能力との差を縮めるために必要となる時間を考慮した現実的な目標を設定する
- 各オフィスを含め、国際性と可動性を大切にされた企業文化を構築する
- 海外のチームと頻繁に連携を取とりやすくなるプラットフォームを使用する
- 事務管理部門を含む全ての職務で、様々な国籍の社員を含む多様性のあるチームを構築する
- 社員全員をテストし、英語スキルの弱点を戦略的に特定する
- 人財の役割に合うようにチューニングされた英語カリキュラムで従業員を指導する
- テクノロジーを活用して柔軟性の高い学習を大規模に行う
- 役割ごとに英語能力の最低基準を設け、それらの基準が満たされているかテストする
- 時間をかけて英語力の向上をした人財に褒賞を与える
- 英語学習の体験談を共有することで経営陣や管理職クラスが従業員の手本となる
- 全社員に対して英語学習へのアクセスを優先する

公的機関および教育委員会向け

- カリキュラムで利用可能な時間数と教育の主要な節目ごとに達成できる能力レベルを提示する
- 教師と受講者の両方を対象に大規模な評価基準を設け、ベンチマークを設定した上で、長期的な進捗を追跡する
- 英語によるコミュニケーションスキルを評価できるよう入学試験と卒業試験を構築する
- 全ての新人教師のトレーニングプログラムに英語を含める
- 他の指導法で訓練を受けた英語教師に対し、実践的な指導法のトレーニングを再度行う
- 指導に十分な英会話力を持った教師のみが英語を指導できるような制度を設ける
- 英語を指導するための最低基準を設け、定期的に指導員のテストを行い、基準に満たない者をトレーニングする
- 子供たちに母語での読み書きを最初に教える
- 現在の職務のためだけでなく今後のキャリア構築も見据て、全ての公務員の英語スキルを評価し、必要に応じてトレーニングを提供する

職業安定所と失業対策プログラムで英語指導を提供する

- 社会人向けに英語教育を含む生涯学習プログラムを提供する
- 政府によって資金投入された成人向け語学コースが、受講者が目標を達成するのに十分な期間で集中的に提供されるようにする
- コースの品質を証明しスキルの通用性を高め、標準化されたマイクロクレデンシャルを構築する
- テレビ番組や映画の吹き替えを行わず、字幕を使って原語で放送されるようにする

教師および教育機関向け

- 英語の指導に、コミュニケーション重視のアプローチを採用する
- 間違いばかりに目を向けるのではなく、コミュニケーションがうまくいったことを重要視する
- トレーニング外でも英語メディアに触れ受講者が好きなことを共有するなどの機会を提供する
- 教師が自身の英語向上に取り組める明確な道筋を示す
- 大学の全ての専攻で英語を必須科目にする
- すべての教師に、英語能力向上のための簡単なプログラムやカリキュラムと、そのための時間を与える
- 生徒と教授の両方の英語レベルが条件を満たす場合は、教科を英語で指導するのを許可する
- 英語能力が伸び悩んでいる受講生のために、英語の補習プログラムを設ける

個人向け

- コツコツ続け、次の能力レベルに上がるためには何百時間もかかることを理解しておく
- 段階が上がるにつれ、能力が向上していることを認識し、自分の成長を褒める
- 数分でもよいので、毎日英語を学習する
- 最大1時間のセッションで学習し、集中力が衰えたと感じたら休憩を取りましょう。
- 実現可能な目標を具体的に設定し、書き出しておく
- 仕事や研究分野に関連する語彙を暗記し、すぐに使ってみる
- 本を音読するだけでもよいので、会話の練習をする
- 休憩時間を使って楽しめる英語コンテンツを見つける
- 英語でテレビを見たり、本を読んだり、ラジオを聞いたりする
- 英語を話す国へ旅行をする際は、できるだけ会話をする
- オンラインレッスンを取り入れて、定期的な会話練習と教師とのコミュニケーションの機会を設けることも検討してみましょう。

この指数について

分析方法

この「EF EPI」は、2022年にEF Standard English Test (EF SET)または当社の英語プレイズメントテストのいずれかを受験したグローバルで220万人以上の受験者のテストデータに基づいて作成されています。

EF 英語標準テスト (EF SET)

EF SET は、オンラインで受けられるリーディング力とリスニング力を測る適応型英語テストです。当テストは標準化され、客観的にスコア付けされており、受験者の語学能力を Common European Framework of Reference (CEFR) によって定義された 6 つのレベルに分類できるよう設計されています。EF SET はすべてのインターネットユーザーが無料で受けられます。EF EST の研究および開発についての詳細は、www.efset.org/about/ をご参照ください。

EF EPI 2023 の各国スコアには、TOEFL iBT 2021 の各国スコア (r=0.77) および IELTS Academic Test 2022 の各国スコア (r=0.59) と強い相関関係があることが分かっており、このような相関関係から、これらの試験にはデザインや受験者のプロフィールに違いがあらながらも、国の英語能力において同様の傾向があることが見て取れます。

受験者

EF EPI 英語能力指数の試験受験者サンプルは、回答者が言語学習の意欲がある人、および若年成人に偏る傾向がありますが、男女の人数に差はなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。

- 女性受験者の割合はサンプル全体の42%、男性受験者の割合は35%、性別の情報を提供しなかった受験者の割合は23%となっています。

- 年齢情報を提供した回答者の年齢の中央値は26歳、回答者の88%が35歳以下、99%が60歳以下となっていました。また、回答者の29%が生年を記入していませんでした。

- 男性受験者の年齢の中央値は26歳、女性受験者の年齢の中央値は25歳でした。

この指数には、受験者数が400人以上の受験者の都市、地域、国のみのデータが使用されていますが、大半の国や地域が受験者数400人をはるかに超えています。

サンプリングの偏り

指標に含まれる受験者は任意で受験した人に限り、その国全体のレベルを代表するわけではありません。また、英語学習へのモチベーションが高い人、自分の英語能力に興味がある人などがテストに参加している可能性が高く、ランダムな母集団のスコアと比較した場合、スコアにより偏りが生じる可能性があります。

EF SET は無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続可能な人であれば誰でも参加することができます。受験者のほぼ全員が社会人ないし新卒者であり、インターネットにアクセスできない人々は含まれていません。本テストは、さまざまなデバイスに対応できる柔軟性を備えており、受験者の37%がモバイル端末でテストを受けています。また、インターネットの利用率が低い地域では、オンラインでの受験が難しく、それによってサンプリングバイアス（経済的に不利な人々や教育水準の低い人々が除外されること）が生じ、得点が高くなっている可能性があります。しかし、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、広範囲にわたる指数に対し膨大なデータを収集するのに効果的であり、世界における英語能力レベルに関する貴重な情報を提供する手段であることは間違いありません。

スコアの計算法

EF EPI スコアの計算は、指数を安定させ、毎年のサンプリングの誤差を軽減するために、3年分のスコアのローリング平均を使って算出されています。まず、その国に居住する全受験者が前年中に達成した EF SET スコアの平均を算出し、次に、それ以前の2年分の公表済みの EF EPI スコアと平均しています。さらに、業種や職能、年功序列レベルについても、同様の方法でスコアを算出しています。

各国の EF EPI スコアの算出後に、それらのスコアを用いて世界の地域（欧州、アジアなど）スコアと、グローバルでのスコアを算出しています。これらのスコアは、国ごとに母集団加重されるため、たとえばアジアのスコアの計算においては、インドのスコアはタイのスコアよりもはるかに重いウェイトを占めます。この方法を、国家レベルで計算されるすべてのスコア（世界と地域のスコアと、その性別と年齢層の内訳）に適用しています。

国内のサブグループのスコアは、母集団加重されておらず、前年度の EF SET データに基づいて直接算出し、国別のスコアに照らし合わせることによって一貫性を持たせています。

スコアしきい値に基づき、国、地域、および都市は能力別グループに分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります

CEFR	EF EPI スコア	EF EPI Band
C2	700-800	非常に高い
C1	600-699	非常に高い
B2	550-599	高い
	500-549	標準
B1	450-499	低い
	400-449	非常に低い
A2	300-399	非常に低い
A1	200-299	非常に低い
Pre-A1	1-199	非常に低い

その他のデータソース

EF EPI は、国家試験の結果や言語世論調査データ、またはその他いかなるデータと競合することも、否定することも目的としていません。これらのデータセットは、むしろ互いを補完しあうものであり、年齢層、国、地域、受験者のプロフィールなどがより具体的であるものの、範囲が限定された調査やテストとは対照的に、EF EPI では、世界中の社会人を対象に、共通の評価方法を用いて調査を行っています。これほどの規模と範囲を持つデータセットは他には存在せず、政策立案者をはじめ学者やアナリストと、英語教育についての世界的な議論を展開する上でも、価値ある参考資料になると考えています。

EF EPI は、Euromonitor や Gallup などの世論調査機関、あるいは OECD による学習到達度調査 (PISA) や国際成人力調査 (PIAAC) などの能力調査とは異なるプロセスで作成されています。これらの調査では、年齢、性別、教育水準、所得などの複数の要素を考慮して調査対象者を抽出しており、調査パネルは小規模であることが多く、参加者は多くとも数千人程度ですが、複雑なサンプリング手法を用いて調査を実施しているため、全人口を代表していると考えられています。

PISA には、2025 年に初めて外国語としての英語能力評価が導入される予定となっており、15 歳の能力レベルをベンチマークするうえで、EF EPI にとって興味深い比較データとなると考えています。

英語能力に関するもう一つのデータソースとして、国の教育制度に関する集計データがあります。多くの大学では、高校生や大学受験生全員を対象に全国統一の英語能力テストを実施しており、（結果が公表されている場合とされていない場合があります）教育関係者や政府関係者はこうしたデータをもとに教育改革の効果を評価し、改善すべき点を洗い出しています。しかし、こうした全国規模のテストは、他国と同条件で比較することができず、さらに、成人を対象としていないため、世界のある地域の高校生の英語能力に関する情報は得られるものの、国際比較にや、成人の英語能力レベルを把握するうえでは有用ではありません。

EF Education First

イー・エフ・エデュケーション・ファースト (EF) は、1965 年にスウェーデンで創設され、以来、世界 100 カ国以上で語学、旅行、文化交流、学術プログラムを通してイマーシブな文化教育に取り組んでいます。詳しくは www.ef.com をご覧ください。また、法人向けに英語研修はもちろん、リーダーシップ研修や人事評価、コーチングソリューションも提供しております。詳しくは www.hultef.com/jp をご覧ください。EF EPI 英語能力指数は Signum International AG によって発行されています。

EF EPI 能力レベル

EF EPI能力レベルについて

EF EPI能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。

各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EF EPIは英語を母国語としない国と地域のみを調査の対象としています。

右の一覧では、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例を紹介しています。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

英語能力レベルについては、平均的な受験者の能力を示しているに過ぎないことを念頭に置くことが重要であり、本テストは国や地域を比較することを目的としており、個々の強みや弱みは反映されていません。

能力レベル

能力レベル	タスク例
非常に高い ドイツ オランダ シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる ✓ 高度な文章を簡単に読むことができる ✓ 英語のネイティブスピーカーと契約交渉ができる
高い アルゼンチン ナイジェリア フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 職場でプレゼンを行っている ✓ テレビ番組を理解できる ✓ 新聞を読む
標準的 ブラジル インド ロシア	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門分野における会議に参加している ✓ 歌の歌詞を理解することができる ✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる
低い 中華人民共和国 パキスタン トルコ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる ✓ 同僚とちょっとした会話ができる ✓ 同僚からの簡単なメールを理解できる
非常に低い メキシコ サウジアラビア タイ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 簡単な自己紹介(名前、年齢、出身国)ができる ✓ 簡単な合図を理解できる ✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる

CEFR レベルとCan-Do 自己評価

熟練者

C2	<ul style="list-style-type: none"> ● 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。 ● いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。 ● 自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
C1	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。 ● 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ● 社会的、学問的、職業上の目的に応じた柔軟でかつ効果的な言葉遣いができる。 ● 複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文を作ることができる。

自立した言語使用者

B2	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。 ● お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。 ● かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
B1	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 ● 特定の言語を話されている地域を旅行しているときに起こりそうな大抵の事態に対処することができる。 ● 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。 ● 経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。

基礎段階の言語使用者

A2	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 ● 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ● もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け船を出してくれる場合に簡単なやり取りをすることができる。
A1	<ul style="list-style-type: none"> ● ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ● 簡単に日常的な範囲内で、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。 ● 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

ヨーロッパ評議会の言葉

EF EPI 参加国のすべての国はレベルA2～C1の範囲に分類されます。

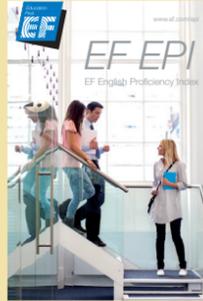
EF EPI 各国・地域スコア

各地域の英語力に
おける変化の年次比較

	EF EPI 2023年版	EF EPI 2022年版	スコアの推移
オランダ	647	661	-14
シンガポール	631	642	-11
オーストリア	616	628	-12
デンマーク	615	625	-10
ノルウェー	614	627	-13
スウェーデン	609	618	-9
ベルギー	608	620	-12
ポルトガル	607	614	-7
南アフリカ	605	609	-4
ドイツ	604	613	-9
クロアチア	603	612	-9
ギリシャ	602	598	4
ポーランド	598	600	-2
フィンランド	597	615	-18
ルーマニア	596	595	1
ブルガリア	589	581	8
ハンガリー	588	590	-2
スロバキア	587	597	-10
ケニア	584	582	2
フィリピン	578	578	0
リトアニア	576	589	-13
ルクセンブルク	575	596	-21
エストニア	570	570	0
セルビア	569	567	2
マレーシア	568	574	-6
チェコ共和国	565	575	-10
ナイジェリア	562	564	-2
アルゼンチン	560	562	-2
香港特別行政区	558	561	-3
スイス	553	563	-10
ホンジュラス	544	522	22
ジョージア	541	524	17
ベラルーシ	539	533	6
ガーナ	537	529	8
イタリア	535	548	-13
モルドバ	535	528	7
スペイン	535	545	-10
コスタリカ	534	536	-2
アルバニア	533	523	10
ウルグアイ	533	521	12
ボリビア	532	525	7
ロシア	532	530	2
キューバ	531	535	-4
フランス	531	541	-10
パラグアイ	530	526	4
ウクライナ	530	539	-9
ウガンダ	529	512	17
アルメニア	528	506	22
韓国	525	537	-12
エルサルバドル	524	519	5
ペルー	521	517	4
チリ	518	524	-6
グアテマラ	515	505	10
イスラエル	514	483	31
ドミニカ共和国	512	514	-2
ベネズエラ	508	492	16

	EF EPI 2023年版	EF EPI 2022年版	スコアの推移
ネパール	507	494	13
イラン	505	489	16
ベトナム	505	502	3
バングラデシュ	504	493	11
インド	504	516	-12
ニカラグア	503	499	4
チュニジア	502	511	-9
パキスタン	497	488	9
レバノン	496	513	-17
トルコ	493	495	-2
スリランカ	491	487	4
タンザニア	491	496	-5
エチオピア	490	490	0
ブラジル	487	505	-18
パナマ	486	482	4
アラブ首長国連邦	486	476	10
モンゴル	482	485	-3
カタール	482	484	-2
コロンビア	480	477	3
モロッコ	478	478	0
アルジェリア	475	476	-1
マダガスカル	474	—	新規
インドネシア	473	469	4
エクアドル	467	466	1
シリア	467	461	6
中華人民共和国	464	498	-34
アゼルバイジャン	463	440	23
エジプト	463	454	9
クウェート	461	459	2
マラウイ	460	—	新規
日本	457	475	-18
アフガニスタン	456	450	6
メキシコ	451	447	4
キルギス共和国	450	442	8
ミャンマー	450	437	13
パレスチナ	445	—	新規
ウズベキスタン	442	446	-4
カメルーン	438	425	13
セネガル	438	—	新規
ヨルダン	431	443	-12
スーダーン	430	426	4
カンボジア	421	434	-13
ハイチ	421	421	0
オマーン	418	412	6
アンゴラ	416	402	14
ベナン	416	—	新規
タイ	416	423	-7
カザフスタン	415	420	-5
ソマリア	411	414	-3
イラク	410	404	6
コートジボワール	409	403	6
サウジアラビア	408	406	2
ルワンダ	405	392	13
リビア	392	390	2
イエメン	392	370	22
タジキスタン	388	397	-9
コンゴ民主共和国	385	367	18

EF EPIの過去資料は www.ef.com/epi からダウンロードできます。



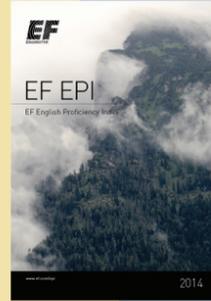
EF英語能力指数
2011年版



EF英語能力指数
2012年版



EF英語能力指数
2013年版



EF英語能力指数
2014年版



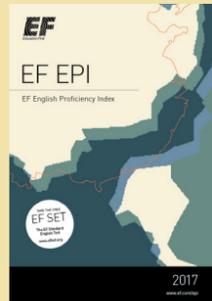
EF英語能力指数
2023年版



EF英語能力指数
2015年版



EF英語能力指数
2016年版



EF英語能力指数
2017年版



EF英語能力指数
2018年版



EF英語能力指数
2019年版



EF英語能力指数
2020年版



EF英語能力指数
2021年版



EF英語能力指数
2022年版

